

科目名	教職論		対象 単位数 必修	短期大学部 家政科福祉情報専攻 1年 2単位 選択/短期大学部 生活芸術科 1年 2単位 選択/短期大学部 音楽科 1年 2単位 選択
担当教員	佐久間 邦友			
開講期	I			
授業概要	<p>〔授業の目的・ねらい〕 授業のねらいは、教職についての基本事項(教職の意義、教員の役割等)を把握し、現行教員養成制度の原理とその課題について理解し、それに対応する力を身につけ、自らが教育の専門職としての教師像・観を形成できることを到達目標とする。</p> <p>〔授業全体の内容の概要〕 授業は、基本講義形式で行うが、小レポートの作成、VTRの視聴、授業内での活動・意見交換等のグループワークも設ける。また現役の教員をゲストスピーカーとして招き、講演会を開催する予定である。</p>			
達成目標	<p>①教職の意義や教師の役割、責務をどの程度理解できたのか。 ②教師に求められる資質能力を理解し、己の教師観を確立することができたか。 ③現代の教育課題について理解することができたのか。</p>			
受講資格	教職等に就くことを希望する者	成績評価 方法	試験(70%)、レポート(20%)、授業参画度(10%)	
教科書	佐藤晴雄『教職概論 第4次改訂版』学陽書房 2015年			
参考書	授業中に適宜紹介する。			
学生への要望	常に受け身の姿勢ではなく、主体的、積極的な姿勢で授業に望んでほしい。			
オフィスタイム	<p>月曜Ⅲ限(12:50~14:20) 木曜Ⅱ限(10:30~12:00) 場所: 教職課程推進室 そのほかの時間帯の希望を含め、事前にkunitomo@koriyama-kgc.ac.jpにご連絡ください。</p>			
自学自習	<p>事前学習: 当日の内容をテキストで確認しておくこと(1時間) 事後学習: 授業を踏まえて、レジュメを使ったノートまとめ(1時間)</p>			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	オリエンテーション	1. 授業に関するガイダンス 2. 教師の影響力を考える
2	ドラマの中の教職観と理想の教師像	1. 学習者にとっての理想の教師像 2. テレビドラマから見た理想の教師像 3. ドラマ教師の条件
3	体験の中の教職観と理想の教師像	1. 教師像をめぐる問題 2. 日本の伝統的な教師像 3. 教師観の変遷から見た理想の教師像
4	教職の意義	1. 教職とは何か 2. 教職の意義
5	教師と教員養成の歴史	1. 師範学校における教員養成 2. 戦後の教員養成制度 3. 教員免許制度改革の動向―「学び続ける教師」―
6	教員の任用と服務	1. 教員の配置と任用 2. 教員の身分と任用 3. 教員の服務 4. 身分保障と分限・懲戒 5. 勤務条件
7	教師の役割と仕事(1)	1. 教師の法的役割と役割意識 2. 教師の仕事の特質と内容
8	教師の役割と仕事(2)	1. 教師の仕事の実際 2. 生涯学習社会における教師への期待
9	管理職・主任の役割	1. 校長の役割と権限 2. 副校長・教頭の役割のリーダーシップ 3. ミドルリーダーの機能 4. 管理職試験
10	教師の職場環境	1. 教師の勤務実態 2. 教師の悩みと不満 3. 学校での人間関係 4. 教師のライフサイクル
11	専門職としての教師	1. 教師の資質・能力 2. 他業種との比較からみる専門職としての教師
12	教師の資質向上と研修	1. 教師の力量形成と研修制度 2. 教員免許更新制度
13	教育実習の意義と心得	1. 教育実習の意義 2. 教育実習の心得 3. 学習指導案と授業の実際
14	教職への進路選択と教員採用選考	1. 進路選択 2. 教員採用試験の実態 3. 教員採用試験の傾向と対策
15	面接・模擬授業	1. 面接対策 2. 模擬授業

科目名	教育原理		対象 単位数 必選	短期大学部 家政科福祉情報専攻 1年 2単位 選択/短期大学部 生活芸術科 1年 2単位 選択/短期大学部 音楽科 1年 2単位 選択
担当教員	石堂 常世、佐久間 邦友			
開講期	I			
授業概要	<p>本授業は教職課程必修科目のうちのもっとも基本となる科目であり、受講生たちが教育の原理や理念、教育の歴史や思想に関する基本的理解を深めて教育の全体と課題を把握することを目標とする。受講生は、これまでほぼ無意識に教育を受けてきた立場から転じて、今後は人間の発達や知育や徳育の問題について教育思想や教育法制度、教育行政の理解をすることで、教育について客観的視点から学習するようになる。その場合、学校教育の在り方をとくに深く考察し、教職という職責の意義と責任について自覚を高めていく。こうして、教育に対する上記の視点の転換によって、教育の原理・本質を、歴史的考察と合わせて、国際比較の観点からも幅広く理解できるようになるであろう。</p> <p>さらに受講生は、教員として求められる実践的教養を身につけていくことが求められる。とりわけ、教育法規、教育課程、教育行政については具体的に正確に理解し、学校教育の骨格について理解を深めると同時に、教育や子どもを取り巻く時事問題へも精通するようになり、教職に対する前向きなスタンスを培うようにする。</p> <p><履修カルテの評価項目：到達目標></p> <p>①教育の目的とは何かについて考察をするが、その場合、歴史的練磨を経てきた教育の古典的思想や子ども観、発達観、学習観の理論に触れて、人間の成長の意味を考えることができたか。</p> <p>②自己体験からだけでなく、社会的・行政的、制度的角度から教育について理解することができるようになったか。</p> <p>③学校・学級に関する問題意識を高めることができたか。</p> <p>④マスコミで話題になる学校教育や子どもの問題について、表面的ではなく、原理的に考察できるようになったか。</p>			
達成目標	<p><履修カルテの評価項目：到達目標></p> <p>①教育の目的とは何かについて考察をするが、その場合、歴史的練磨を経てきた教育の古典的思想や子ども観、発達観、学習観の理論に触れて、人間の成長の意味を考えることができたか。</p> <p>②自己体験からだけでなく、社会的・行政的、制度的角度から教育について理解することができるようになったか。</p> <p>③学校・学級に関する問題意識を高めることができたか。</p> <p>④マスコミで話題になる学校教育や子どもの問題について、表面的ではなく、原理的に考察できるようになったか。</p>			
受講資格	短期大学部 家政科福祉情報専攻 1年 2単位 選択 短期大学部 生活芸術科 1年 2単位 選択 短期大学部 音楽科 1年 2単位 選択	成績評価 方法	<p>①授業中に1～2回レポートを課し、次回の授業で発表・意見交換を行う。レポートの評価が10%</p> <p>②学期末筆記試験の結果が80%</p> <p>この2つの総合点に、授業中の積極性が見られた場合は加算、欠席等が多い場合やレポート提出がない場合は減点措置をとる。</p>	
教科書	<p>教科書は特に定めない。 その代わりに、毎回の授業にはその日の授業内容を詳述したレジюме（内容の中身）を配布するので、それらを「教育原理」専用ファイルに綴じ、授業の際には必ず持参し、試験前にはしっかり再読して、常に理解を深めること。 尚、以下の参考書の欄を参照。</p>			
参考書	<p>①第1の参考書は、安彦忠彦・石堂常世編著『最新教育原理』勤草書房、2016版、2,200円＋税。希望者には80%にて取り寄せます。 ②一般参考書となる文献は、『教育法規』や『文部科学白書』、『子ども・若者白書』などの公的資料や分野別研究書など、多数あります。いずれにしても、授業中に教えます。 それら指定資料は、おおむね図書館に揃えてあります。</p>			
学生への要望	<p>講義形式を大切にしながら、同時に提出レポートを活用した発表や、教育的テーマをめぐるアクティブな意見交換の形式を導入することで、教育問題への考察を習慣づける。したがって、受講生には主体的な学習を求める。</p> <p>1 学問的要望 教育の原理となっている教育思想や教育行政には、先ず歴史的系譜というものがああり、それを理解することが必要である。各思想間には相違や見方の対立があるので、その対立構造や文脈を理解することで主要な教育思想や特徴を把握していくならば、歴史的に知られている教育思想や教育論を生き生きと理解することができる。 授業中に出てくる思想家、哲学者、教育実践家（学校をつくって教育にあたった人物）については、その次の授業までに可能な限り教育学辞典や世界人名事典、インターネット等で調べて確認し、それらのコピーを取っておいて知識を確実にしよう。</p> <p>2 守るべきこと ・毎回の授業には清新な気持ちで臨み、新しい内容を発見し、自分を作り上げていってほしい。 ・参考書は授業中に指示するが、教科書は定めない。毎回配布される授業内容のレジюмеや資料を必ずファイルにして綴じておき、それを大切に保存し、毎回の授業に、そのファイルを持参すること。 ・授業に対しては真摯な気持ちで臨み、授業開始時と終了時の礼儀（挨拶）を軽視しないこと。 ・レポートを出された場合は、既定的日（大抵は翌週の授業時）に必ず提出すること。定期試験前に慌てて過去のレポートを提出しても認められない。通常はA4の用紙に印字してくること。 ・授業開始時には、机の上に決して飲食物を出しておかないように重た心がけること。</p>			
オフィスタイム	<p>随時、時間のあるときに受け入れるので、相談希望の場合、メールで確認のアポをとること。 石堂：ishidoh@koryama-kgc.ac.jp 佐久間：kunitomo@koryama-kgc.ac.jp 即時にメールで日時や面談場所を返信し、確認し合って質問、相談に応じます。</p>			
自学自習	<p>当然ながら、授業中に出された調べ学習は自学的「予習」となる。授業後の内容理解の「復習」は、教育を見る目を発展的に伸ばしてくれる。教育を見る目に変化が出てくるはずである。</p>			

～授業内容とスケジュール～

回	項目	授業内容
1	導入：教職という仕事と教育について学ぶことの意味	<p>主観的体験・主観的見方から客観的見方への転回へ</p> <p>1 家庭教育という人間形成の基盤 レポート（次回提出）「私の受けた家庭教育の意義」</p> <p>2 学校・社会から見た教育の構造 家庭教育、学校教育、社会教育</p> <p>3 教育学の構造を知る 教育を考察する多面的・総合的領域 教育実践の位置</p>

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
2	「教育」の意味に関する思想的アプローチ	1 レポート「私がうけた家庭教育の意義」の発表・意見交換 本論 1 教育の意味をどうとらえるか 消極的教育と積極的教育の意味 教育educationの語彙からさぐる教育の原理 2 人間の成長の本質を考える 植物の成育、動物の飼育と成長、 そして人間の成長
3	子どもを取り巻く環境の変化と今日的課題	1 発達の問題、親の変化・家庭の変化 2 生活の変化と子どもへの影響関係 3 地域の教育力 郡山市教育委員会の試み 4 子どもの主体性と自律性をどう育てるか 5 グローバル時代の教育観：地球市民育成論 6 学校が担うあらたな役割 子どもの貧困問題の中で
4	西洋の教育思想を学ぶ：①古典の部	1 イデアリズム（観念論）の人間像と教育観 ギリシャ時代：ソクラテス、プラトン、アリストテレス、 近世～近代：モンテーニュ、カント、アラン等の系譜 2 宗教的教育観 聖書の教えと、アウグスティヌス、 トマス・ア・ケンピス、コメニウスのパターン 3 感覚論の教育思想（科学的人間観の教育論） ロック
5	西洋の教育思想を学ぶ：②近世～現代の部	4 子ども中心の教育思想：「新教育」の教育思想 子どもの成長そのものを教育とみる考え方 ルソー、エレン・ケイ、ピアジェ、デューイの系譜 5 社会の継承発展の機能としての教育観 国家の管轄下に置かれた20世紀の学校と教育の機能 デュルケイム とくに、1945年以降の教育社会学の影響 6 学校崩壊論：「学校のない社会」という思想の求めていること 管理主義型学校教育への批判と解放論 他方、不登校児童・生徒の増加の問題 復習：主要な教育論者の著作の主張点を振り返る。
6	日本の教育思想	1 江戸時代末までの教育観：日本人の精神的骨格 「実語教」に学ぶ人間の熟成：儒教的人間像 2 「教育勅語」に支配された戦前までの教育：近代国家への躍動の中の学校教育 3 「教育基本法」と戦後の教育：アメリカ型学校教育の受容とそれらの変化 4 経済発展の中の受験体制と偏差値という重圧
7	学習指導要領と学校教育の展開	1 学習指導要領とは何か：教育法令の基礎から理解する 2 教育課程（カリキュラム）編成の在り方 教科の構造・学習の構造 学問的系統性と子どもの自主性・関心の相克 思想研究：ヘルバルトとデューイの相違 コンピューター活用の授業と学習形態の変化 3 国際比較からみたカリキュラム編成のあり方 教育行政の在り方との特色 4 今日の学力の国際比較とそれがもたらしたこと
8	教育法規の体系	1. 日本国憲法 2. 教育基本法 3. 学校教育法・同施行規則
9	日本の教育制度と行政	1. 学校教育制度 2. 社会教育・生涯学習制度 3. 教育行政システム
10	学校制度の類型	1. 学校制度の類型—単線型と複線型— 2. 他国の教育制度 3. 私教育と公教育の違い
11	「学校」という空間	1. 学校・教室の風景 2. フリースクール 3. 子供の放課後活動の変遷
12	生涯学習社会	1. 戦後の社会教育制度 2. 生涯学習への移行 3. 学校支援ボランティアなどのボランティアの現状
13	教育改革の背景と実際	1. 今日の学校を取り巻く状況の変化 2. 教育改革の過程 3. 教育改革とアクター
14	日本社会が抱える教育に関する病理（1）	1. 子供の貧困

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
15	日本社会が抱える教育に関する病理（2）□	1. 教員の多忙化 2. モンスターペアレント 3. 授業後半のまとめ

平成29年度

科目名	教育心理		対象 単位数 必選	短期大学部 家政科福祉情報専攻 1年 2単位 選択/短期大学部 生活芸術科 1年 2単位 選択/短期大学部 音楽科 1年 2単位 選択
担当教員	折笠 国康			
開講期	I			
授業概要	教育心理学は、教育活動をより効果的に行うための心理学的な知見や技術を提供する学問である。本科目を通して、より効果的な教育実践が可能となる教育に関する心理学的な知識や方法を理解することを目標とする。			
達成目標	①認知や感情などの「心の発達」に関する基本概念をどの程度理解できたか。 ②「自己」に関する基本概念をどの程度理解できたか。 ③近年の教育現場で問題となっている事柄をどの程度理解できたか。			
受講資格	短期大学部 家政科 福祉情報専攻 1年 短期大学部 生活芸術科 1年 短期大学部 音楽科 1年	成績評価 方法	授業内容の「80%程度」の理解が必要。理解度の評価は、授業の参加の様子やリアクションシート30%、定期試験70%で行う。	
教科書	特に指定はない。			
参考書	講義の中で、適宜紹介する。			
学生への要望	講義への協力的な参加を要望する。			
オフィスタイム	金曜 2限 835 3限 835			
自学自習	関連文献などを利用して理解を深めること。			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	オリエンテーション、教育心理学とは	この授業の目的と授業方針を理解する。心理学的な思考や考察が果たす役割を理解する。認知心理学の基礎を学び、認知に対する認識について理解する。
2	自己に関わる心理学（1）	アイデンティティ、自己評価、自尊感情の概念を理解し、自己を心理学的に理解する。
3	自己に関わる心理学（2）	アイデンティティ、自己評価、自尊感情の概念を理解し、自己を心理学的に理解する。
4	自己に関わる心理学（3）	本当の自尊感情、本当の自分について心理学的に理解する。
5	記憶と思考（1）	人間の記憶と思考のメカニズムについて理解する。
6	記憶と思考（2）	人間の記憶と思考のメカニズムについて理解する。
7	動機づけの心理学（1）	人間の動機づけについての知見を概観し、動機づけを心理学的に理解する。 内発的動機づけに関する自己決定理論の概略を理解する。
8	動機づけの心理学（2）	人間の動機づけについての知見を概観し、動機づけを心理学的に理解する。 内発的動機づけに関する自己決定理論の概略を理解する。
9	学級の心理学（1）	理想の学級の姿や学級の機能、全国的な学級の様子や課題について理解する。 学級アセスメントについて理解する。
10	学級の心理学（2）	理想の学級の姿や学級の機能、全国的な学級の様子や課題について理解する。 学級アセスメントについて理解する。
11	学級の心理学（3）	理想の学級の姿や学級の機能、全国的な学級の様子や課題について理解する。 学級アセスメントについて理解する。 アクティブラーニングと学級集団の関係を理解する。
12	勇気と勇気づけの心理学	自主自立の姿の達成、人生を主体的に生きるために必要な勇気と勇気づけについて理解する。
13	アドラー心理学（1）	アドラー心理学を概観し、人間の行動に関しての目的について理解する。 また、人生を主体的に生きるための知見について理解する。
14	アドラー心理学（2）	アドラー心理学を概観し、人間の行動に関しての目的について理解する。 また、人生を主体的に生きるための知見について理解する。
15	本講義のまとめ	本講義の内容を振り返り、心理学的な知見のまとめを行う。

科目名	教科教育法Ⅰ（美術）		対象 単位数 必選	短期大学部 生活芸術科 1年 2単位 選択
担当教員	黒沼 令			
開講期	Ⅰ			
授業概要	普通教育において美術がはたす教育機能には、美術の活動を通して調和のとれた人格の形成を促すという役割と、人間の発達課題をふまえた造形的な創造活動の能力の育成、獲得という役割があると考えられる。このような人間教育としての美術教育の意義について、いくつかの視点から問題を探りながら理解を深め、学ぶことによって明らかにしていく。そしてこの学習を通して美術教師を志す学生としての自覚を促し、同時に次年度の教育実習へ向けて、授業の具体的な展開のための理念と方法について模索する。			
達成目標	<教職課程履修カルテ評価項目> ①美術教育の目的、意義について理解できたか。 ②美術教育の歴史、理論について理解できたか。 ③美術の授業の指導法について考える事ができたか。			
受講資格	生活芸術科1年・教職履修学生	成績評価 方法	・ペーパーテスト 40% ・模擬授業、指導案、レポートなど 30% ・出席状況、授業態度 30% 以上の配分で評価する。 60点以上で合格とするが、授業理解度は7割以上を求める。	
教科書	・「美術科教育の基礎知識」建帛社 ・「中学校指導書・美術編」文部科学省			
参考書	・「造形教育事典」建帛社 ・「美術教育と子供の知的発達」黎明書房 ・「中学校美術教科書」			
学生への要望	教育についての、新聞、テレビの報道や番組にも関心を向ける。また美術教育に関する専門雑誌、図書を読む			
オフィスタイム	月曜日 Vコマ 水曜日 IV、Vコマ 木曜日 IV、Vコマ 彫刻室、No.2生芸研究室			
自学自習	事前学習：当日の内容をテキストで確認しておくこと 指導案やレポート等の準備（1時間） 事後学習：授業のテキストを振り返りまとめる 模擬授業や発表の反省をまとめる（1時間）			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	美術科教育の目的 1	<ul style="list-style-type: none"> ● 1回、2回の授業では、美術教育の目的について理解することを目標とし次の事項について学ぶ。 ・「美術の教育」と「美術を通しての教育」のちがいについて。 ・美術科教育はなぜ必要か、教科としての美術の役割を考える。学生自身の考えも述べる。
2	美術教育の目的 2	<ul style="list-style-type: none"> ・美術科教育の現状と課題について、“教科としての美術”の様々な問題を考える。 ・美術教科の存在の意味を、子供の実態とその背景から考える。
3	造形表現能力の発達 1	<ul style="list-style-type: none"> ●美術教育に携わる教師にとって子供の造形表現能力の発達について理解することは必須であり、3回、4回の授業では次の事項について学ぶ。 ・発達とはなにか。 ・造形表現能力の発達（絵画表現を中心として）について、次の①～⑦の各時期に特徴的な表現を学ぶ。 ①錯画期 ②象徴期 ③前図式期 ④図式期
4	造形表現能力の発達 2	<ul style="list-style-type: none"> ⑤初期写実の時期 ⑥擬似写実の時期 ⑦決定の時期
5	日本の美術教育理論と歴史 1	<ul style="list-style-type: none"> ●5回、6回の授業では日本の美術教育理論と歴史を学び、これからの美術教育のあり方を考えることを目標とする。特に明治維新以来の日本の美術教育が、時代背景、社会背景のもとでどのようにすすめられてきたか、それぞれの時代の美術科教育の特色について学ぶ。 ①明治初期（学制前）までの教育 ②明治期の図画教育 <ul style="list-style-type: none"> ・鉛筆画教育の時代 ・毛筆画教育の時代
6	日本の美術教育理論と歴史 2	<ul style="list-style-type: none"> ③大正期の図画教育 <ul style="list-style-type: none"> ・自由画教育の時代 ④昭和初期、戦時体制化の図画、手工教育 ⑤第二次大戦後の図画工作教育
7	外国の美術教育理論と歴史 1	<ul style="list-style-type: none"> ●明治以来、外国の美術教育理論が移入され、わが国の美術教育に大きな影響を与えてきた。これら美術教育理論を知ることで、美術教育について考えを深めていくことを目標とする。 ①フレーベルの教育理論 ②アーツアンドクラフツ運動とその影響 ③チゼックの教育理論
8	外国の美術教育理論と歴史 2	<ul style="list-style-type: none"> ④バウハウスの美術理論とその活動 ⑤ハーバード・リードの美術教育理論 ⑥ローウェンフェルドの美術教育理論 ※上のそれぞれの美術教育理論や美術教育運動について、履修者は分担して調べ発表する。
9	美術科の性格と構造	<ul style="list-style-type: none"> ●美術科の性格と構造について様々な視点からその特質を学び、美術教育についての理解を深める。次の4項目について学ぶ。 ①表現教科であることとはどういうことか。 ②素材、道具（手）に関わる教科であることとはどういうことか。 ③視覚、体性感覚に関わる教科であることとはどういうことか。 ④美と用に関わる教科であることとはどういうことか。

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
10	美術科の目標、内容及び評価 1	<ul style="list-style-type: none"> ● 10回～12回の授業では学習指導要領をもとに美術科の目標、内容及び美術評価について学び、美術科のはたす役割を確認する。以下それぞれの項目についてテキスト「中学校学習指導要領・美術」（文部科学省）にそって学ぶ。 ①美術科の目標 <ul style="list-style-type: none"> ・教科の目標 ・各学年の目標 ※予習では学習指導要領・美術の目標を熟読しておくこと。
11	美術科の目標、内容及び評価 2	<ul style="list-style-type: none"> ②美術科の内容 <ul style="list-style-type: none"> ・表現（絵や彫刻などの表現・デザインや工芸などの表現） ・鑑賞 ※教育現場での具体的な実践内容は教科教育法Ⅱで学習する。
12	美術科の目標、内容及び評価 3	<ul style="list-style-type: none"> ③美術の評価について。 <ul style="list-style-type: none"> ・造形教育の評価の難しさ。 ・評価の目的と評価の対象 ・評価と評定 ・学習活動の評価（評価の観点） ・評価方法の種類
13	授業の実際 1	<ul style="list-style-type: none"> ● 次年度の教育実習に向けて下の項目を中心に授業の実際について学ぶ。 ①年間指導計画の意味。 ②学習指導案とはなにか。 ③教材研究とはなにか。 ※課題として模擬学習指導案を作成する。
14	授業の実際 2	<ul style="list-style-type: none"> ・各自作成した模擬学習指導案をもとに模擬授業をおこなう。（一人15分程度） ※本時の模擬授業をもとに、模擬指導案について指摘された改善点などを書き直し、再度提出する。
15	まとめ	<ul style="list-style-type: none"> ● 教科教育法Ⅰで学んだことを通して、美術教師を志す学生としての自覚が醸成されたか自己確認する。また教職履修学生の今後の予定等も確認しておく。 ①めざす美術教師像について各自考えを述べる。 ②教育実習への参加について説明する。 ③教員採用試験対策について説明する。

科目名	教科教育法Ⅱ（美術）		対象 単位数 必選	短期大学部 生活芸術科 1年 2単位 選択
担当教員	浅野 章			
開講期	Ⅱ			
授業概要	中学校美術教育の教育内容を具体的実践的に学び研究することは、教育現場での指導に直接かかわることであり美術教師を志す学生にとって必須のことです。教科教育法Ⅱでは中学校学習指導要領・美術の教育内容（①表現・「絵や彫刻」および「デザインや工芸」と②鑑賞）について、各内容の学習指導の方法及び教材研究の方法を、具体的事例を交えながら研究します。			
達成目標	教育現場での指導に直接かかわる内容である本授業はオムニバス形式をとります。各教員の高度な専門性を手掛かりにしながら十分に吸収・理解していくことを目標とします。 <教職課程履修カルテ評価項目> ①表現（「絵や彫刻」および「デザインや工芸」）と鑑賞の教育内容を理解することができたか。 ②上記の表現と鑑賞の指導方法を考えることができたか。			
受講資格	生活芸術科1年 教職履修者	成績評価 方法	絵画、彫刻、工芸、デザイン、鑑賞の各分野の理解度、授業態度をそれぞれの担当が25点満点で評価し、合計したものを成績とする。	
教科書	・「美術教育の基礎知識」（建帛社） ・中学校指導書・美術編（文部科学省）			
参考書	・美術教育辞典（建帛社） ・中学校美術教科書			
学生への要望	美術の多様な表現に関心を持ち、教材化の試みを意識し、主体的、積極的な姿勢で授業に望むこと。			
オフィスタイム	平日の授業の無い時間、又は放課後に生活芸術科研究室で受ける。（8:30-17:00）			
自学自習	【事前学習】オムニバス各分野担当教員配布の資料や作品集などを事前に閲覧しておく。（1時間） 【事後学習】授業実施内容を踏まえ、ノートなどに詳しくまとめ、徹底した復習を行う。（1時間）			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	絵画表現の指導①	絵画とは何か？ ・クレヨン、パス類の基礎技法と指導方法について。 ・水彩絵具の基礎技法と指導方法について。 ・遠近法とは何か、又その遠近法と絵画指導との関わりについて。
2	絵画表現の指導②	・小学生の見て描く学習のポイント。 ・小学生の想像して描く絵の学習ポイント。 ・小学生の記憶画・生活画の学習のポイント。
3	絵画表現の指導③	・中学生の観察表現の学習のポイント。 ・中学生の想像表現の学習のポイント ・絵画による心理診断法の是非。
4	彫刻表現の指導①	◎5回～7回の授業では、彫刻表現の指導で教師に必要とされる彫刻の知識・技能・指導方法を習得することを目指す。 ・彫刻学習の意義、目的について学ぶ。
5	彫刻表現の指導②	・彫刻表現の方法は彫造、塑造、集合などがあるが、彫刻材料の違いによる様々な造形技法について学ぶ。 また、丸彫り、レリーフなどの表現様式について理解する。
6	彫刻表現の指導③	・彫刻表現の要素である強調、単純化、動勢、バランス、立体構造の組み立て等彫刻を成立させる造形要素について学び、彫刻の指導方法の要点を習得する。
7	工芸表現の指導①	・◎8回～9回の授業では、工芸の指導で教師に求められる知識、技能、指導方法を習得することを目指す。 工芸学習の意義、目的について、次の4つの視点から考える。 ①手を使ってつくる。 ②工芸の機能性。 ③工芸の装飾性。 ④工芸を生活に生かす。
8	工芸表現の指導②	・工芸の素材と工芸の技法について学ぶ。 ①木工芸の技法 ②陶芸の技法③金属工芸の技法 ④染織の技法について ⑤その他の工芸の技法 ※生活芸術科のカリキュラムでは陶芸・彫金・染織を履修できるが、実際に材料を扱うことで指導方法の要点を学ぶようにする。
9	デザイン表現の指導①	1 デザイン学習の意義と目的 ・社会性のある美術的表現・計画性と合目的性
10	デザイン表現の指導②	2 基礎デザイン ・伝達のためのデザインと生活のためのデザインについて（平面・立体）
11	デザイン表現の指導③	3 ユニバーサルデザインについて。 ・その意義と社会性について。指導法
12	デザイン表現の指導④	4 版画の種類と技法について ・凸版、凹版、平版、孔版の代表的な版形式の種類と技法の解説と指導方法について ・子供の絵の見方と評価についての注意点と指導方法について
13	鑑賞の指導①	1 美術鑑賞教育の目的と内容 ・鑑賞の意味・鑑賞の背景・鑑賞の対象・鑑賞場所と方法・表現と鑑賞の関わり・作品展示 2 批評学習（Critical Study）の方法と学習のポイント ・批評学習とはなにか・目的と実践例 3 いろいろな鑑賞の観点 4 対話型鑑賞・ギャラリートーク
14	鑑賞の指導②	1 小・中学校の鑑賞 2 美術館・博物館との鑑賞教育

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
15	鑑賞の指導③	1 異文化（国際）理解と鑑賞 2 現代美術の鑑賞法 3 鑑賞教育の評価 ・鑑賞評価教育の考え方 ・対象のとらえ方など 4 まとめ

科目名	道徳教育の理論と方法		対象 単位数 必選	短期大学部 家政科福祉情報専攻 1年 2単位 選択/短期大学部 音楽科 1年 2 単位 選択/短期大学部 生活芸術科 1年 2単位 選択
担当教員	小阪 康治			
開講期	II			
授業概要	<p>現代人の道徳心がこれで大丈夫なのか、と多くの人が思っているでしょう。大震災の時には、人々の善意が至る所に見られて、人間の良い部分が現れていました。しかし同時に、いじめや不登校の問題、子どもだけでなくモンスター・ペアレントなどの難問も厳然と存在し、教員はこれらに対応しなければなりません。</p> <p>人間は道徳心を確かに持っている。しかしそれが現れていない状況が非常に多い。したがって、道徳心とはどういうものか、それをどんなふう育てていくのか、教室で実際にどう教えるか。これがこの講義の目的であり、教育法を教わって、考えるだけでなく、体得して教室で教えられるようにしておくための時間です。</p> <p>したがってこのような授業は、きちんとした一定の形があるわけではありません。自分で生徒の状態や工夫の状態や興味を観察しながら、工夫して、進めていかなければなりません。</p> <p>あくまで現場で授業に臨むときの授業の組み立て、実際の練習が目的なので、各自の自発的、積極的な参加や発言がないと、この講義は成り立ちません。自発性がないことは授業を欠席しているのと同じことだという気持ちで参加して下さい。</p> <p>〔履修カルテの評価項目〕</p> <p>① 道徳教育の主題の選択についてどの程度理解できたか。 ② 道徳教育の方法についてどの程度理解できたか。 ③ 道徳についてどの程度理解できたか。</p>			
達成目標	<p>現代人の道徳心がこれで大丈夫なのか、と多くの人が思っているでしょう。大震災の時には、人々の善意が至る所に見られて、人間の良い部分が現れていました。しかし同時に、いじめや不登校の問題、子どもだけでなくモンスター・ペアレントなどの難問も厳然と存在し、教員はこれらに対応しなければなりません。</p> <p>人間は道徳心を確かに持っている。しかしそれが現れていない状況が非常に多い。したがって、道徳心とはどういうものか、それをどんなふう育てていくのか、教室で実際にどう教えるか。これがこの講義の目的であり、教育法を教わって、考えるだけでなく、体得して教室で教えられるようにしておくための時間です。</p> <p>したがってこのような授業は、きちんとした一定の形があるわけではありません。自分で生徒の状態や工夫の状態や興味を観察しながら、工夫して、進めていかなければなりません。</p> <p>あくまで現場で授業に臨むときの授業の組み立て、実際の練習が目的なので、各自の自発的、積極的な参加や発言がないと、この講義は成り立ちません。自発性がないことは授業を欠席しているのと同じことだという気持ちで参加して下さい。</p> <p>〔履修カルテの評価項目〕</p> <p>① 道徳教育の主題の選択についてどの程度理解できたか。 ② 道徳教育の方法についてどの程度理解できたか。 ③ 道徳についてどの程度理解できたか。</p>			
受講資格	特になし		成績評価 方法	最終成績は、講義時間内での発表30%、学習指導の練習40%、指導案30%などで、最終成績とします。出席回数は学内規定通りです。その他の細々とした評価方法については、すべて講義中に受講者の前で明確に述べます。教職関連講義なので、教師としての態度にも注意してください。
教科書	受講生と相談して決める。			
参考書	必要に応じて指示する。			
学生への要望	目的が教員採用試験と採用後の授業の練習なので、学生もその積りで講義に臨んで欲しい。学生諸君の興味、関心を聞きながら、社会状況に応じて、講義のテーマや内容、各テーマについての時間の配分などは、変更することもあります。			
オフィスタイム	火、水曜日昼休み。研究室			
自学自習	予習は発表者は学習指導案を丁寧に作る。発表者でない者は、その日の発表について、次回の発表の参考にする点を明確にしておく。			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	15回全体の内容についての説明	講義について。内容は1回ごとに完結させる。講義中の発言方法。私語について厳しく対応すること。試験の出題の仕方。成績評価の方法。試験の練習など。これらについて詳しく説明します。 準備しておくことの説明。各テーマを示してあるので、受講者も一応考えておくこと。グループ発表を各2回づつ行う予定なので、グループ分けをする。
2	恋愛について	愛と恋はどう違うか、同じクラスの異性が好きになったとき、どうすれば良いか。こういうことに悩んでいる生徒たちに、教師としてどういうアドバイスをすべきか。しかしこれは教えている教師の側の問題でもあります。自分ならどうするか、どうしたかを、差し支えない範囲で、体験も交えながら、指導する方法を考えます。
3	いじめについて	いじめは言うまでもなく良くないことです。しかし誰もがそう思っているのに、なぜなくなるのでしょうか。またいじめている子を、諭したとき、その子が逆にいじめられたと感じることもあるようです。それはその子の勝手な言い分でしょうか。それとも、言い方が悪かったのでしょうか。これも受講生の多くが、高校のころまでに体験したことでしょう。自分が見聞したことなども分析しながら、問題を研究します。
4	家族の絆	家族は本学の建学の精神の中心でもあります。なぜ家族がないといけなのか。家族と社会はどう違うか、家族によって何が守られるのか、などを挙げて考えてみます。 旅客機が墜落する直前に発信されたメールなどのいくつかの例を挙げながら、家族の絆について考えます。
5	グループ発表(第1グループ 1回目)	決めておいたグループ発表を行います。
6	グループ発表(第2グループ 1回目)	決めておいたグループ発表を行います。

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
7	優しさとは	ふつう人は優しさを求めます。優しさは人間関係を円滑にするし、優しい人が多くの人々から好かれるのも間違いありません。しかし優しさだけでは、人間同士の関係は馴れ合いの、いい加減なものになってしまう。優しさと厳しさの間のどこに線を引けばいいのでしょうか。厳しい優しさとはどういうものなのでしょうか。厳しさとはほんとうに優しさなののでしょうか。
8	情報と噂	テレビや新聞、ラジオは情報源としては大変便利なものです。けれどもよく見ていると、同じ問題でも、番組によって、異なった意見を言っていることはしばしばあります。新聞もそうです。子どもたちの間ではただの噂話が、ひじょうに大事な判断材料になっているのがよく見かけられます。噂と情報を見分けることを教え、訓練しなければなりません。
9	論文練習	これまでの時間の内容について、論文練習をします。この練習の目的は、学生の側からは、①これまでの講義をどれだけ理解できているかを自分で振り返ってみる。②論文練習をすることで、学期末の試験の練習になる。③採用試験時の筆記試験の対策にもなる。 教える側からすると、①なによりだいたいなのは、自分の頭で物事を考えさせる訓練になる、②みんなで答案を検討するので、論文の書き方を具体的に理解させることができる、③教えたことをどれだけ理解しているかを点検できる、などです。これも教育法のひとつの実例です。
10	辞める理由	部活に入っている生徒で、部活は楽しいのだが、勉強と両立できないという悩みは、いつの時代の若者にも共通しています。 部活だけでなく、学校、会社を辞める人も沢山います。友達関係の断絶も、そのうちに入るかもしれません。やめるということは正しいことか。絶対にいけないという訳ではないでしょう。正しい辞め方と、いけない辞め方の区別はどこですのか、などを事例に応じて考えてみましょう。
11	グループ発表（第2グループ 2回目）	グループ発表の2回目を行います。
12	グループ発表（第1グループ 2回目）	グループ発表の2回目を行います。
13	道徳教育の根本原理について	これまでの、例を振り返りながら、なぜやさしさが必要なのか、なぜ家族の絆が求められるのか、なぜやめるのがいけないかなど、これらの問題の根本にある道徳の基本原則を考えてみます。
14	論文練習	次回の試験の練習をします。
15	本学期のまとめ	本学期の各自の発表をまとめて批評し、持参した授業案を批評する。

平成29年度

科目名	特別活動論		対象 単位数 必選	短期大学部 家政科福祉情報専攻 2年 2単位 選択/短期大学部 生活芸術科 2年 2単位 選択/短期大学部 音楽科 2年 2単位 選択
担当教員	折笠 国康			
開講期	Ⅲ			
授業概要	本講義では、学習指導要領における特別活動の位置づけを基に、昨今の学校現場での現実や特別活動に関する課題を理解することを目的とする。また、本講義を通して特別活動の望まれる姿や教師の指導のあり方についての考察を行うことも重要な目的とする。			
達成目標	①学校教育における教科外活動の意義と目的を理解する。 ②生徒をとりまく環境の実態を把握し、特別活動に求められるものを理解する。 ③理論を基にした学級経営の手法やアセスメントについて理解する。			
受講資格	中学校教諭の教員免許の取得を目指す学生	成績評価 方法	内容の「60%」の理解で合格とするが、「80%程度」の理解が望まれる。理解度の評価は小レポート30%、定期試験70%で行う。	
教科書	特に指定はない。授業の時に資料を配布する時がある。			
参考書	必要に応じて紹介する。			
学生への要望	講義への主体的、協力的な参加を要望する。 専用のノートを準備すること。			
オフィスタイム	金曜 2限 835 3限 835			
自学自習	関連図書などを利用して理解を深めること。			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	オリエンテーション 特別活動とは	この授業の目的と授業方針を理解する。特別活動とは何か、基礎的知識を理解する。
2	教育課程と特別活動 学習指導要領について	学習指導要領の変遷を通して、各時代における学校にかかわる問題について考え、理解する。
3	学校の現実 (1) 学力や学級の現実	客観的なデータに基づき、現在の学校の実態について理解する。主に学力や学級の状態についての理解を深める。
4	学校の現実 (2) 生徒の実態	客観的なデータに基づき、現在の学校の実態について理解する。主に生徒の生活の様子や実態についての理解を深める。
5	学校の現実 (3) 家庭や地域の実態	客観的なデータに基づき、現在の学校の実態について理解する。主に家庭環境や地域の実態についての理解を深める。
6	特別活動の実際(1) 学級のアセスメントⅠ	標準化された心理尺度などによる客観的な指標を基にした学級の状態のアセスメントを理解する。
7	特別活動の実際(2) 学級のアセスメントⅡ	標準化された心理尺度などによる客観的な指標を基にした学級の状態のアセスメントを理解する。
8	特別活動の実際(3) 生徒指導	学校で行われている生徒指導の実際や今後望まれる方向性などについて、客観的なデータや資料に基づいて理解する。
9	特別活動の実際(4) 特別支援と生徒指導	特別支援教育の在り方や基礎理解、実際の生徒指導場面での問題や課題などについての理解を深める。
10	特別活動の指導と教師のリーダーシップ(1)	特別活動における教師の果たす役割やあり方、実際の指導行動の状態、時代が求める望まれるリーダーシップについての理解を深める。
11	特別活動の指導と教師のリーダーシップ(2)	特別活動における教師の果たす役割やあり方、実際の指導行動の状態、時代が求める望まれるリーダーシップについての理解を深める。
12	アクティブラーニングと学級集団	理想の学級の姿や学級の機能、全国的な学級の様子や課題について理解する。 学級アセスメントについて理解する。 アクティブラーニングと学級集団の関係を理解する。
13	特別活動による、人格形成や自己実現の理論(2)	記憶と学習などに関わる基礎的な理論について理解する。人間のやる気にかかわる「動機づけ」の基本的な仕組みについて理解する。人間の自ら学ぶ意欲の発達を理解する。内発的動機づけに関する自己決定理論などの概略を理解する。
14	特別活動による、人格形成や自己実現の理論(3)	目的論的思考と決定論的思考の対比や、アドラー心理学の自己や他者理解の視点を理解する。
15	本講義のまとめ	本講義の振り返りを通して、特別活動の基礎知識と実際の活動を理解する。

科目名	生徒指導論	対象 単位数 必選	短期大学部 家政科福祉情報専攻 1年 2単位 選択/短期大学部 音楽科 1年 2 単位 選択/短期大学部 生活芸術科 1年 2単位 選択
担当教員	石堂 常世		
開講期	Ⅱ		
授業概要	<p>生徒指導とは、学校教育において全教職員が関わる校務のひとつであり、時代によってその名称は変化し、その内容にも若干の変化があった。先ず、学校教育の業務構造（領域と校務分掌）との関係で生徒指導とは何かを理解し、その後、歴史的展開の中での生徒指導の機能と意味を把握する。さらに、いじめや不登校、そして問題行動や非行が話題となってきた20世紀末から、生徒指導はその意味合いを、問題行動の予防と対策に重点化してきていること、そこで、どのような問題や課題が子どもたちを取り巻いており、どのような指導・対応が望まれるのかを学ぶ。</p> <p>また、これと合わせて、進路指導や教育相談の仕事についても、生徒指導の一環であるという認識のもとに、理解を深めていく。最終的に、教員になった場合に、子どもたちの実態についてたじろぐことなく、問題行動の予防と対処に、教職員間で協働して進めていけるよう、実践的理解を深めていきたい。</p> <p>【履修カルテの評価目標】</p> <p>①教師は、教科を教えるだけが仕事ではなく、子どもたちの人格を磨き、社会性を身につけさせ、独立した自立的な人間として形成することの力量と人間性をもつ必要があることを自覚できたか。</p> <p>②生徒指導主事の役割を認識できたか。また各教師は、生徒指導の個別相談に関して、カウンセラーの能力をもっている必要があることを理解できたか。</p> <p>③生徒指導は、教師1人ではできないこと、学校内の教師たちの協力体制があってこそ可能であり、学級・学校経営の在り方にも関わっている。ゆえに、生徒指導は、校長、副校長といった管理職はいうまでもなく、学年主任や養護教諭やスクール・カウンセラーとの連携が重要であることを理解できたか。</p> <p>④生徒指導は、非行予防・非行対策のみならず、子どもたちの健全育成のための教育プランと連動すること、その推進には、PTAを始め地域社会の人々や、教育委員会、警察の生活安全課少年係、民生委員の方々等との連携が必要となっており、地域の支援のもと学校全体で取り組む仕事となっていることが理解できたか。</p>		
達成目標	<p>【履修カルテの評価目標】</p> <p>①教師は、教科を教えるだけが仕事ではなく、子どもたちの人格を磨き、社会性を身につけさせ、独立した自立的な人間として形成することの力量と人間性をもつ必要があることを自覚できたか。</p> <p>②生徒指導主事の役割を認識できたか。また各教師は、生徒指導の個別相談に関して、カウンセラーの能力をもっている必要があることを理解できたか。</p> <p>毎回の授業終了時に、「出席票」を書かせるが、その中では、「本日の授業で学んだこと」、「本日の授業でもっと詳しく知りたいと思ったこと」、「これから調べてみたいと思ったこと」を記載させている。この記載内容を担当教授として読むが、各回の授業の到達目標の%が分かる。全体的に記載が曖昧な場合は、次回の授業で再度ポイントを教え、各学生が達成目標に届くように配慮している。</p> <p>③生徒指導は、教師1人ではできないこと、学校内の教師たちの協力体制があってこそ可能であり、学級・学校経営の在り方にも関わっている。ゆえに、生徒指導は、校長、副校長といった管理職はいうまでもなく、学年主任や養護教諭やスクール・カウンセラーとの連携が重要であることを理解できたか。</p> <p>④生徒指導は、非行予防・非行対策のみならず、子どもたちの健全育成のための教育プランと連動すること、その推進には、PTAを始め地域社会の人々や、教育委員会、警察の生活安全課少年係、民生委員の方々等との連携が必要となっており、地域の支援のもと学校全体で取り組む仕事となっていることが理解できたか。</p>		
受講資格	短期大学部 家政科福祉情報専攻 1年 2単位 教職必修 短期大学部 音楽科 1年2単位 1年2単位 教職必修 短期大学部 生活芸術科 1年2単位 教職必修 この授業を受けるには、教育原理、教育学原論、道徳教育論などを受講済みであることが望ましい。しかし、それがかなわない場合は、熱心に授業に取り組み、指示された参考文献を読み、かつ社会変化と子どもの変化の関心に注視しつつ、子どもの健全性とは何かを考えるように努めること。	成績評価 方法	レポートを2、3回とり、発表させる。さらに学期末の筆記試験がある。レポート20%、学期末試験80%で、総合点を出し、授業への取り組みが積極的な場合はそれに加算し、これと反対の場合は総合点から減点する。
教科書	・文部科学省『生徒指導提要』。但し、この公的参考文献は図や統計を載せていないので生徒指導の問題への理解を徹底させるため、石堂が毎回の授業でその授業内容のレジュメを配布する。このレジュメを1回目から15回目までしっかり専用のファイルに綴じ、それを教科書として所持していること。配布資料には、新聞記事をはじめ、関連資料のコピーも含まれる。これらも専用ファイルに綴じておくこと。		
参考書	無数にあるので、授業中にその都度紹介する。 『青少年白書』『子ども年鑑』等の公的文献は、図書館で確認すること。		
学生への要望	授業に際しては、前提として、公的認容欠席以外はすべて出席すること。万が一、欠席になる場合は、必ず担当教授のメールアドレス（下記のオフィスタイムを参照）に送信して知らせること。 以下は、具体的な注意と要望： ①授業中に飲食をしない。授業開始時に机の上に飲食物を出しておかない。 ②レポートは必ず指定の日までに提出する。 ③指名された場合には、積極的に前に出て発表等を行う。 ④他人の発表内容を傾聴し、質問等をして理解を深める。 ⑤毎回の授業で「なるほど」と理解を深め、楽しく授業を聴き、自分を高めていくこと。		
オフィスタイム	授業・会議のない日時ならいつでも来室（創学館5階副学長室）可能ですが、休暇取得日もあるので、前もって、必ず、アポをとること。以下の、石堂のメールに送信してください。会える日時をメール返信で打ち合わせます。 ishidoh@koriyama-kgc.ac.jp		
自学自習	課題を出してレポートを提出させることが2～3回あるが、そうした場合は、しっかり授業の復習をして、関係資料に当たり、インターネットで専門用語の再確認をし、認識を深めること。結果はレポートに表れる。毎回、各学生が、1回目から15回目までいくうちに素晴らしい進歩を遂げているので、自学自習はおのずとなされている。		

回	項目	授業内容
----------	-----------	-------------

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	導入	本授業の構成・計画について理解する ・本授業の目標と、15回分の授業内容構成について、配布資料と説明によって理解する ・次回までの提出物として、レポート「思い出に残る先生」をまとめ提出する。 「思い出に残る先生」のうち、「自分の悩みを真剣に聞いてくれた先生」といった事例をレポート発表から抽出し、の生徒指導の職務やあり方についての意識を覚醒していく。
2	生徒指導の意味と位置づけ	前回出したレポートについて4名に発表してもらい、「良い先生とは」の意味を皆で考え、意見交換する。 1、部活での指導をよくして下さった先生、2、進路や悩みで個人的に親身に相談に乗って下さった先生、3、授業のうまい先生、4、学級を甦らせた先生、といったタイプが抽出される。 教師のこれらの指導力を、生徒指導の仕事と関連づけてみる。 ・「教員の主な仕事」（学習指導・特別活動・生徒指導・学校運営と担当校務分掌・研究と研修）を内容を含めて理解したうえで、 ・生徒指導の意味と定義を『生徒指導提要』（文科省）の説明から理解する。また、『学習指導要領』の記載内容からも生徒指導の仕事の意義を理解する。
3	生徒指導の意味の歴史の変遷（1）	生徒指導の意味と用語は、日本独自である。その歴史の変遷と意味の変遷を理解する。 1 第1期 初等教育に始まる訓育としての生徒指導 「小学校生徒心得」（明治11年）、「小学校教員心得」（明治14年） 修身の授業が主要科目でもあり、命令と服従の関係で成り立った訓育 2 第2期 中等教育における職業指導としての生徒指導 大正時代から昭和初期 「児童生徒ノ個性尊重及職業指導ニ関スル件」（昭和2年） 但し、訓育の生徒指導は続行：「児童生徒ニ対スル校外生徒指導ニ関スル件」（昭和7年） 3 戦後の占領下で、生徒指導が「ガイダンス」として普及したときの理念を学ぶ。 ・終戦直後の第一次少年非行の波の到来、第二次、第三次、そして第四次といわれる今日まで、少年の検挙数は減少しているが、問題行動の凶悪化がみられるようになった過程を捉える。 ・生徒指導に関わりある教育領域として道徳教育の時間や総合的な学習の時間等との関係を理解する。
4	生徒指導の意味の歴史の変遷（2）	3 第3期:戦後の生徒指導 ガイダンス、カウンセリングの導入 アメリカ型生徒指導の普及。『児童の理解と指導』『中学校・高等学校の生徒指導（昭和24年）』等で「生活指導」の用語登場 他に、『山びこ学校』発刊で集団指導、集団づくりの教育実践が起こる。 4 第4期:凶悪化した問題行動・非行対策としての生徒指導 文部省『生徒指導の手引』（昭和40年） 5 第5期 いじめ、暴力、不登校の常態化における生徒指導期 地域ぐるみの問題解決体制のしくみと生徒指導の刷新 文部科学省『生徒指導提要』（平成22年）発刊の背景について
5	生活綴り方運動からみた生活指導（生徒指導）	・貧困の中にある山村の生活を直視させる指導から起こった生活指導 ・児童生徒の自主的な生き方を開発した作文指導 ・社会の矛盾への目を開かせた教育実践運動 時事問題 今日の社会における「子どもの貧困」問題 生徒指導の観点を加えて考察しよう。
6	生徒指導の歴史の変遷の総括	生徒指導の意味と構造の確認 ①訓育的心構え→②進路指導（中等教育）→③生活綴り方運動という生徒指導→④ガイダンス→⑤教育相談→⑥キャリア教育→⑦規範教育 すなわち、1980年代以降の社会変化と児童生徒の問題行動・非行への対策と健全育成へ（予防・事件解決・事後指導）
7	子どもたちの問題行動と背景にある社会の変化	・学級崩壊から、いじめ、暴力、殺人、万引き、麻薬使用、不登校、引きこもり、長期欠席等の実態を、統計その他の資料を使って客観的に分析する。 ・社会の変化を考察する。 特に2000年以降、激化してきた変化は何かを調べる。 ①情報化や消費文化中心の生活、科学技術の高度発展とそれに反比例しての「こころの荒れ」 生産・労働から遠ざかりがちなニート、フリーター型の生き方にみられる先進国共通の社会的変化と子ども・青年への影響 ②少子化、母親の就業の一般化、祖父母との別居の一般化、近隣の大人たちの子どもたちへの子育てに無関心、虐待をする親、逆にモンスターペアレンツといわれる理不尽な親たちの出現と、親による学校や教師攻撃の増加など、日本の家族形態の変化と子どもへの影響
8	逸脱行動について先行学説から学ぶ	・フランスの社会学者デュルケムは、19世紀末に「犯罪」を研究し、「犯罪は時々の社会にとって不可欠の機能を果たしている」と主張することで、犯罪というレッテルを張られる行為は必ずしも悪とはいえず、逸脱行為というものは、その社会の規範、考え方、慣習から外れただけの行為である場合があるために、犯罪には正常性も含まれるという考え方を提起し、科学的な社会病理学の先鞭をつけたこと。 ・1938年に、アメリカの社会学者ロバート・キング・マートンが、それまでのアメリカ社会病理学に対して、逸脱行動（deviant behavior）という用語を定着させた論文「社会構造とアノミー（異常行動）」を発表し、その後のシカゴ学派などによる逸脱行動研究の流れを用意したこと。
9	『生徒指導提要』（文科省）を読み解き、活用する。	・文科省が平成22年に刊行した『生徒指導提要』の発刊の意図を認識し、本書を手掛かりにして今日の児童生徒の問題行動の実態、それへの対応（予防、即時解決、事後指導、そして健全育成）へのあり方を体系的に学ぶ。 ・児童生徒の問題行動を統計値から認識する ・個別指導と集団指導の手法を学ぶ ・進路指導、教育相談、家庭・学校・地域・関係機関との連携協力の在り方を学ぶ 他に、国立教育政策研究所生徒指導センターの『生徒指導資料』全4冊や、月刊誌『生徒指導』『教職課程』（生徒指導の特集号）を活用して校内整備や多機関連携についての知識を深める。

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
10	子どもの規範意識とその芽生え	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒指導とは、非行を予防し、発生したら対処するというだけでなく、子どもたちに規範意識を育むことを前提としている。 ・公共性や奉仕の精神は、どのような学習や活動から生まれ育つのであろうか。 ・「子どもは本来純粋で、善である」とは、フランスの18世紀の思想家、ルソーの見方でもあるが、社会がそうした環境を作り上げていないような場合にはそうした性向の自発的発生は期待できにくい点 学校のカリキュラム編成や諸領域を活用して、規範意識をめばえさせる日常的な教師の指導体制について考えてみる。
11	学校の「抱え込み」から開かれた「連携」へ	近年の問題行動の背後には子供の意識と行動の質的変化が加わっており、子どもの心理面に関する専門的な判断の必要性が求められる。さらに、内容・程度が一定の限度を超える問題行動の発生など、学校だけでは対応できない新たな問題が増えてきている。 したがって、学校には、学校内ですべての問題を解決しようとする「抱え込み」意識を捨て、周囲の人々や関係機関と協同して事態に当たる姿勢に転換することが文科省からも強く勧告されている。 関係機関とは、教育委員会であったり、警察であったり、児童相談所であったり、市役所であったりする。学校が抱え込みをやめるといった勧告は、平成10年から出され、問題行動への新たな対応となった。 連携に関する関係資料をひも解きながら、この施策の先行例を学ぶ
12	学校・家庭・地域の連携協力の推進	児童生徒を非行・犯罪から守り、人として・社会人としての規範意識を身につけさせるためには、学校内だけの努力では十分ではなく、学校と関係機関との連携ということが重要である。学校は、子どもの問題を抱え込んで処理しようとして苦しんだり、事態を大きくさせてしまったりしないように、他の関係機関と連携し力を借りることが、事態の早期解決や再犯防止につながる。これについて、関係通達、教育支援活動促進事業等を確認し、さらに、「学びを通じた被災地の地域コミュニティ再生支援事業」の具体的取り組みを調べる。 最後に、文部科学省の提唱する「地域の核としての学校」という新たな未来の学校像から、生徒指導の総合的意義を再確認する
13	連携がかたちだけのものに終わらないために：実例研究	<ol style="list-style-type: none"> 1 大津市の中2いじめ自殺事件が教えること <ul style="list-style-type: none"> ・子どもたちを見つめる目、教育委員会の指導姿勢 ・連携のシステムの形骸化を回避する ・学校と警察との連携協力システムから大津市の「あすなろ」の組織化と落とし穴 ・教育委員会の機動性を見直す：教育委員会はどのように学校と密接な関係をとるか。横浜市の教育委員会の対応システムの事例に学ぶ。 2 担任とくに生徒指導主事の人間力と有り方、校長の生徒指導に対する姿勢 <ul style="list-style-type: none"> いじめを児童生徒から撤退させた教師の成功例に学ぶ。 ・担任の教育愛と人間性が教室でのいじめを一掃させた事例 ・暴力で荒れ果てていた中学校を一新させた新任校長の実践事例に学ぶ
14	子どもの「サインを見逃すな」	問題行動に至らせない指導体制 問題はなぜ発生するのか→問題はどのように現れるか→ →児童生徒は何に悩んでいるのか→問題行動に潜む心理 <ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒のストレスを知る ・ストレス反応にはどのようなものがあるか ・児童生徒のストレスに対応できる教員の指導にはどのようなものがあるか ・立ち直った生徒の事例：そこから何がみえてきたか
15	総括に代えて地域社会、関係諸機関との連携	最近の児童生徒の問題行動の背景と対応の事例研究 変化した家庭・親の増加と実態のなかで教師、学校の在り方を考える。 <ul style="list-style-type: none"> ・学校内対応・学校内生徒指導の仕組みの研究：「生徒指導基本方針」の作成と共通理解 ・学校と地域社会との連携：地域の人的資源を生かす ・学校と関係機関（教育委員会・警察・児童相談所等）との連携 その仕組みをどう定着させるか 地域を挙げての問題行動防止の体制<事例研究>

平成29年度

科目名	進路指導論		対象 単位数 必選	短期大学部 家政科福祉情報専攻 1年 1単位 選択/短期大学部 生活芸術科 1年 1単位 選択/短期大学部 音楽科 1年 1単位 選択
担当教員	佐久間 邦友			
開講期	II			
授業概要	本授業では、キャリア教育・進路指導の基礎的な事項について中央教育審議会答申などを通して学んでいく。また義務教育段階、中等教育段階における実際の進路指導・キャリア教育について都道府県教育委員会の資料を基に学ぶものである。そのほかに、自分自身のキャリアプランについて考え、人間関係を円滑に進めるためのコミュニケーション能力および基礎的なマナーを培う。			
達成目標	①キャリア教育・進路指導の基礎的な事項について理解できたか。 ②進路指導の歴史について理解し、中央教育審議会が示したキャリア教育の新たな方向性を把握することができたか。 ④各教育段階におけるキャリア教育推進のポイントとその実例を挙げることができたか。			
受講資格	教職等に就くことを希望する者	成績評価 方法	試験（70%）、レポート（20%）、授業参画度（10%）	
教科書	黒川雅子・山田知代編『生徒指導・進路指導』学事出版 2014年			
参考書	中学校キャリア教育の手引き（文部科学省）、高等学校キャリア教育の手引き（文部科学省）、このほか授業中に適宜紹介する。			
学生への要望	常に受け身の姿勢ではなく、主体的、積極的な姿勢で授業に望んでほしい。			
オフィスタイム	月曜Ⅲ限（12:50～14:20） 木曜Ⅱ限（10:30～12:00） 場所：教職課程推進室 そのほかの時間帯の希望を含め、事前にkunitomo@koryama-kgc.ac.jpにご連絡ください。			
自学自習	事前学習：当日の内容をテキストで確認しておくこと（1時間） 事後学習：授業を踏まえて、レジュメを使ったノートまとめ（1時間）			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	オリエンテーション	1. 授業に関するガイダンス 2. 自身が受けてきたキャリア教育（進路指導）を振り返る
2	キャリア教育の変遷（1）	1. キャリア教育が求められる背景 2. キャリア教育推進の経緯とキャリア教育の定義 3. 教育法規からみるキャリア教育の位置付け 4. キャリア教育の実践をめぐる課題
3	キャリア教育の変遷（2）	1. 中央教育審議会答申「今後の学校におけるキャリア教育・職業教育の在り方について」
4	進学指導（1）	1. 進路開拓に必要な力—キャリア教育を通じて育成すべき力 2. 進路指導とキャリア教育 3. 進学指導の指導計画と課題
5	進路指導（2）	1. 志望校の決定プロセス 2. 学習塾や予備校との付き合い方
6	就職指導	1. 就職指導に関係する法律等 2. 就職指導の年間日程 3. 外部組織との連携
7	授業の確認テストと解説	1. 確認テスト 2. テストの解説
8	若者の雇用をめぐる問題	1. ニート・フリーター 2. 非正規雇用 3. ブラックバイト 4. 格差社会

科目名	教育相談論		対象 単位数 必選	短期大学部 家政科福祉情報専攻 1年 1単位 選択/短期大学部 音楽科 1年 1 単位 選択/短期大学部 生活芸術科 1年 1単位 選択
担当教員	堀 琴美			
開講期	II			
授業概要	<p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>①悩みを抱える児童・生徒に寄り添いながら問題解決をする「カウンセリングマインド」の基本理念を理解する。 ②子どもの成長や発達を支えるスタンスを学び、教師が行う教育相談とは何かを学修する。 ③子どもを取り巻く社会の諸問題（時事問題）について事例やトピックを取り上げ、支援のあり方を考える。</p>			
達成目標	<p>[授業修了時の達成課題（到達目標）]</p> <p>教員として、カウンセリング・マインドを基礎とした教育・支援の理念を持ち、また児童生徒との信頼関係を築けるような関わり方がイメージできるようになること。</p> <p>[履修カルテの評価観点]</p> <p>①教育相談と生徒指導の違い、教師が行なう教育相談と専門機関との違い、保護者や子どもへのかかわり方などについて、どの程度理解できたか。 ②教育相談における行動変容のプロセスと、カウンセリング・マインドについてどの程度理解できたか。 ③子どもを理解するためのキーワード（発達課題、いじめ、虐待、発達障害等）について、どの程度理解できたか。</p>			
受講資格	「教職課程」受講者	成績評価 方法	期末試験または期末レポート（75%） 授業態度・発言や発表の内容（25%）	
教科書	「教師のための教育相談の基礎」久芳美恵子著 三省堂 2010年発行 1980円			
参考書	授業の中でテーマ別に提示します。			
学生への要望	教師をめざす学生、とは言え、どちらかというと児童・生徒の気持ちのほうがよくわかる…そんな今だからこそ、（子どもとして自分が求めていた）支援者としての教師像を追求してもらいたいと思います。			
オフィスタイム	水曜日Ⅳ限、木曜日Ⅰ限、臨床心理学研究室			
自学自習	事前学習：テキストを読んで、わからない用語は調べておくこと。グループで調査をする際には、テーマについてなるべく深く掘り下げ、テーマをよく絞り込んでいくこと。 事後学習：授業で出てきた重要キーワードは必ず覚え、参考文献を読んで補足をノートにまとめる。			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	オリエンテーション	授業計画と目標、評価ポイント、授業ポリシーについてのガイダンス。「心に残るあの先生」を振り返るワーク
2	教師が行う学校教育相談	子どもを取り巻く諸問題を俯瞰し、生徒指導と教育相談の関係と違いや、援助機能としての教育相談を学びます。
3	相談のプロセスと行動変容	人は理解してもらおうことで行動が変わる。相談の中で何が起るかを学び、相手の言葉にじっくり耳を傾ける体験的訓練を行います。
4	カウンセリング・マインドと共感的理解	ロジャーズの人間性カウンセリング理論を中心に、気持ちを受け止めること、相手の立場に立って考えること体験的に学びます。
5	子ども理解の基礎知識	発達理論（エリクソン、ピアジェ、ハヴィガースト）、欲求階層説、発達のつまづきと支援のあり方などを取り上げます。
6	子ども理解の基礎知識 (2) 問題行動のとらえ方	問題行動とは何か、人の行動や感情には理由があること、理解と指導（寄り添うことと行動を認めることは別である）のテーマについて、考えます。
7	子どもを取り巻く諸問題	不登校、いじめ、虐待など、子どもを取り巻く諸問題について、グループで課題を決めて研究し、発表します。
8	まとめ	子どもを理解し、子どもの伸びる力を引き出し、保護者のところに響くようなアプローチをしていくための教師のスタンスや、関わり方について考え、授業のまとめをします。

平成29年度

科目名	教育実習Ⅰ		対象 単位数 必修	短期大学部 家政科福祉情報専攻 2年 1単位 選択/短期大学部 生活芸術科 2年 1単位 選択/短期大学部 音楽科 2年 1単位 選択
担当教員	佐久間 邦友			
開講期	Ⅲ			
授業概要	教育実習の意義、内容、方法、手続き、実習中の態度や配慮事項について学び、実習にスムーズに入れるようにするとともに、学生の身分のままで生徒に対しては指導者となることの立場や責任の重さを理解する。 教育実習終了後は、実習体験のまとめを発表し、同時に他の実習生の発表を聞くことで、問題点の整理と解決を図りながら、教師としての望ましい姿を追求していく下地を涵養する。			
達成目標	①実習生としての責任の重さを自覚できたか。 ②実習前の事前準備をすることができたか。 ③実際の指導場面を想定した学習指導案が作成できたか。 ④実習体験をふり返り、他者に伝えることができたか。 ⑤自己と他者の反省から、目指すべき教師像が描けたか。			
受講資格	今年度「教育実習Ⅱ」への参加を認められた者	成績評価 方法	①事前指導で義務付けた提出物の内容 (30点) ②事後指導時に提出させるリフレクションシート (20点) ③実習反省の発表 (30点) ④最終レポート「教育実習を終えて - 私の課題 -」 (1200字) (20点)	
教科書	「教育実習マニュアルと記録ー」(本学様式)をもとにすすめ、必要に応じて参考資料を配布する。			
参考書	早稲田大学「教育実習マニュアル」第5版(東信堂)			
学生への要望	1. 学生個人では責任の負担能力に限界があることを強く意識し、「報告」「連絡」「相談」を徹底する。 2. 積極的・主体的に学ぶ姿勢と謙虚に指導を受容する姿勢との両立を図る心構えを形成して欲しい。 3. 教育実習の受入校(生徒と教師)に対して感謝し、その気持ちの表現についても真剣に考えて欲しい。			
オフィスタイム	月曜Ⅲ限(12:50~14:20) 木曜Ⅱ限(10:30~12:00) 場所:教職課程推進室 そのほかの時間帯の希望を含め、事前にkunitomo@koriyama-kgc.ac.jpにご連絡ください。			
自学自習	事前学修:当日の内容をテキストで確認しておくこと。教育問題の動向を知るために、新聞等をよく読んでおくこと。(30分) 事後学修:授業を踏まえて、課題に取り組むこと。(30分)			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	オリエンテーション、事前指導1(大学・短大合同)	・教育実習をするための必要手続き ・「教育実習Ⅰ」の授業計画、評価方法、各自の実習予定と指導時間の調整 ・教育実習の目的、準備、心構え、教員服務基準の遵守 ・実習に臨むにあたっての不安と期待(小レポート)
2	事前指導2(大学・短大合同)	・教育実習日誌の書き方 ・評価と指導の一体化について ・実習に臨むにあたっての不安と期待(小レポート)を読んで
3	事前指導3(大学・短大合同)	・教育実習の不安克服に向けての具体的な事前準備その① ・礼儀作法、スピーチの練習 ・学級活動の指導(ホームルーム) ・特別活動の指導(各種学校行事)
4	事前指導4(大学・短大合同)	・教育実習の不安克服に向けての具体的な事前準備その② ・教科の指導(板書、教具の活用など) ・御礼状の書き方
5	事前指導5	・模擬授業(大学・短大合同) ・教科指導案(細案)の個別指導 ・道徳指導案の個別指導(短大)
6	事前指導6	・模擬授業(大学・短大合同) ・教科指導案(細案)の個別指導 ・道徳指導案の個別指導(短大)
7	事前指導7	・模擬授業(大学・短大合同) ・教科指導案(細案)の個別指導 ・道徳指導案の個別指導(短大)
8	事前指導8	・模擬授業(大学・短大合同) ・教科指導案(細案)の個別指導 ・道徳指導案の個別指導(短大)
9	事前指導9	・模擬授業(大学・短大合同) ・教科指導案(細案)の個別指導 ・道徳指導案の個別指導(短大)
10	事前指導10	・模擬授業(大学・短大合同) ・教科指導案(細案)の個別指導 ・道徳指導案の個別指導(短大)
11	事前指導11	・模擬授業(大学・短大合同) ・指導案(細案)の個別指導 ・道徳指導案の個別指導(短大)
12	事前指導12	・模擬授業(大学・短大合同) ・指導案(細案)の個別指導 ・道徳指導案の個別指導(短大)

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
13	事後指導 1	<ul style="list-style-type: none"> ・教育実習体験の発表 ・他者評価と自己反省 ・リフレクションシートの提出
14	事後指導 2	<ul style="list-style-type: none"> ・教育実習体験の発表 ・他者評価と自己反省 ・リフレクションシートの提出
15	事後指導 3	<ul style="list-style-type: none"> ・教育実習体験の発表 ・他者評価と自己反省 ・まとめ

平成29年度

科目名	教育実習Ⅱ		対象 単位数 必選	短期大学部 家政科福祉情報専攻 2年 4単位 選択/短期大学部 生活芸術科 2年 4単位 選択/短期大学部 音楽科 2年 4単位 選択
担当教員	佐久間 邦友			
開講期	通年			
授業概要	教育実習の目的である以下の4点を踏まえ、日頃の学びの成果および教育実習事前指導で得たことを基に、「教師としての資質」を高めるために現場実習を行うことを目指す。 1. 大学で学んだことを、教える立場に立って実践的に検証すること。 2. 教師のあり方や職務・使命などを、体験的に理解すること。 3. 学校の実情や生徒の実態を把握し、それらへの具体的対応や心構えを知ること。 4. 自己の教職適性や教職志望を確認すること。			
達成目標	①教材研究を入念に行い、計画した指導案を実践できたか。 ②実習生としての身分をわきまえながら体験することで、教員としての服務基準の遵守を理解できたか。 ③教育実習日誌への簡潔で的確な記述ができたか。 ④学校の実情や生徒の実態、課題を把握することができ、その対処について指導教諭から具体的な対応策を学ぶことができたか。 ⑤実習校の先生方や生徒とのふれあいをとおして教職への志望が一層高まったか。			
受講資格	今年度「教育実習Ⅱ」への参加を認められた者	成績評価 方法	実習校からの評価と実習記録および実習への取り組みの総合点(100点)とする。	
教科書	教育実習 マニュアルと記録			
参考書	事前指導の際に連絡する。			
学生への要望	教育実習生としての心構えを理解し、実践できるように事前準備をしっかりと行うこと。 受け身の姿勢ではなく、主体的、積極的な姿勢で臨んで欲しい。			
オフィスタイム	月曜日限(12:50~14:20) 木曜日限(10:30~12:00) 場所:教職課程推進室 そのほかの時間帯の希望を含め、事前にkunitomo@koryama-kgc.ac.jpにご連絡ください。			
自学自習	事前学修:当日の実習内容をよく確認しておくこと。(60分) 事後学修:その日の実習を踏まえて、授業準備や課題に取り組むこと。(60分)			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	オリエンテーション	1. 教育実習の目的 2. 教育実習の心構え 3. 教育実習のための準備
2	オリエンテーション	1. 実習日誌の書き方 2. 法令上の注意 3. 実習前打ち合わせ記録
3	現場実習	実習校での現場実習
4	現場実習	実習校での現場実習
5	現場実習	実習校での現場実習
6	現場実習	実習校での現場実習
7	現場実習	実習校での現場実習
8	現場実習	実習校での現場実習
9	現場実習	実習校での現場実習
10	現場実習	実習校での現場実習
11	現場実習	実習校での現場実習
12	現場実習	実習校での現場実習
13	現場実習	実習校での現場実習
14	現場実習	実習校での現場実習
15	教育実習成果報告会	1. 教育実習での成果 2. 教育実習で発見した課題と解決

科目名	教職実践演習		対象 単位数 必選	短期大学部 家政科福祉情報専攻 2年 2単位 選択/短期大学部 生活芸術科 2年 2単位 選択/短期大学部 音楽科 2年 2単位 選択
担当教員	佐久間 邦友			
開講期	IV			
授業概要	授業の概要 本演習では、以下の4事項を踏まえて授業を行う。教員として必要な資質や知識および技能の再確認を行うとともに、自己分析を通して不足している部分の補完を目指し、教員として備えるべき資質のさらなる向上を目指す。			
達成目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 使命感や責任感、教育的愛情等に関する事項 <ol style="list-style-type: none"> ①教育現場の現状を再確認し、教師の使命と役割を理解できたか。 ②社会性や対人関係能力に関する事項 2. 生徒および教職員との人間関係を円滑に進めるためのコミュニケーション能力を培うことができたか。 3. 児童生徒理解や学級経営等に関する事項 <ol style="list-style-type: none"> ③現在の学校における生徒指導上の課題を理解し、「生徒1人ひとりへ個別に対応できる能力」と「学級集団を育成する能力」を培う。とともに「特別支援教育の現状」や「発達障害児」への指導・援助について理解できたか。 4. 教科の指導力に関する事項 <ol style="list-style-type: none"> ④中学校の音楽、美術、家庭科、高等学校の家庭科の教科指導を十分に遂行できる知識と技術を再確認するとともに、各自が幅広い視野で学びを深め、専門性を高めることができたか。 			
受講資格	教育実習Ⅰ・Ⅱを履修していること	成績評価 方法	外部講師の講演を受けてのレポート（担当 佐久間）：10点 ×2回＝20点 「教科の指導力」（担当 難波・磯部・黒沼）：30点 「特別支援教育」（担当 佐久間）：10点 「附属高校の訪問報告書」（担当 佐久間）：10点 「コミュニケーション」（担当 折笠）：20点 「まとめ」の領域における評価（担当 佐久間）：10点	
教科書	授業の際に、配布する「教職実践演習ノート」			
参考書	授業の際に、各担当教員より配布される。			
学生への要望	受け身の姿勢ではなく、主体的、積極的な姿勢で授業に臨んで欲しい。			
オフィスタイム	月曜Ⅲ限（12:50～14:20） 木曜Ⅱ限（10:30～12:00） 場所：教職課程推進室 そのほかの時間帯の希望を含め、事前にkunitomo@koryama-kgc.ac.jpにご連絡ください。			
自学自習	事前学習：当日の内容をテキストで確認しておくこと。教育問題の動向を知るために、新聞等をよく読んでおくこと。（60分） 事後学習：授業を踏まえて、課題に取り組むこと。（60分）			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	オリエンテーション	①履修カルテの整理をすすめながら、これまでの教職課程における学びを振り返る。 ②本科目の目的、授業計画、評価方法について説明して、授業に対する心構えを作る。 ③模擬授業の実施方法の説明 担当：佐久間邦友 菊池節子 磯部哲夫 黒沼令
2	気になる子の理解と対応について	ゲストスピーカーによる講演 担当：ゲストスピーカー（佐久間邦友）
3	福島県における教育の現状・課題としての教師の役割	福島県教育庁関係者による講演 担当：福島県教育庁関係者（佐久間邦友）
4	「特別支援教育」の現状と課題	福島県内特別支援学校教員による講演 担当：ゲストスピーカー2名（佐久間邦友）
5	附属高校訪問と講話	附属高等学校を訪問し、講話をいただく。 担当：ゲストスピーカー2名（佐久間邦友）
6	児童・生徒・保護者との円滑なコミュニケーションの方法について	円滑なコミュニケーションの方法について学修する。 担当：折笠国康
7	児童・生徒・保護者との円滑なコミュニケーションの方法について	円滑なコミュニケーションの方法について学修する。 担当：折笠国康
8	（音楽科・美術科・家庭科・栄養教諭合同）研究授業指導案の改善と発表①～家庭科～	家庭科の授業について、4教科合同で学びを深める。 担当：菊池節子 佐久間邦友
9	（音楽科・美術科・家庭科・栄養教諭合同）研究授業指導案の改善と発表②～家庭科～	家庭科の授業について、4教科合同で学びを深める。 担当：菊池節子 佐久間邦友
10	（音楽科・美術科・家庭科・栄養教諭合同）模擬授業の発表と改善のための話し合い①～栄養教諭～	栄養教諭の授業について、4教科合同で学びを深める。 担当：菊池節子 佐久間邦友
11	（音楽科・美術科・家庭科・栄養教諭合同）模擬授業の発表と改善のための話し合い②～栄養教諭～	栄養教諭の授業について、4教科合同で学びを深める。 担当：菊池節子 佐久間邦友

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
12	(音楽科・美術科・家庭科・栄養教諭合同) 模擬授業の発表と改善のための話し合い③ ~栄養教諭~	栄養教諭の授業について、4教科合同で学びを深める。 担当：菊池節子 佐久間邦友
13	(音楽科・美術科・家庭科・栄養教諭合同) 教科の専門技能の発表と改善のための話し合い① ~美術~	美術の授業について、4教科合同で学びを深める。 担当：黒沼令 佐久間邦友
14	(音楽科・美術科・家庭科・栄養教諭合同) 教科の専門技能の発表と改善のための話し合い① ~音楽~	音楽の授業について、4教科合同で学びを深める。 担当：磯部哲夫 佐久間邦友
15	まとめ	授業の総括を行う。 当初の目標と現在の課題を確認し、自己評価と反省を行い、レポートを提出し履修カルテを完成させる。 担当：菊池節子 佐久間邦友

平成29年度

科目名	教職キャリアデザイン I		対象 単位数 必選	短期大学部 家政科福祉情報専攻 1年 2単位 選択/短期大学部 音楽科 1年 2 単位 選択/短期大学部 生活芸術科 1年 2単位 選択
担当教員	佐久間 邦友			
開講期	II			
授業概要	教職キャリアデザイン I は、建学の精神に則り、教員としてのキャリア形成を目指す学生を対象にした科目である。本科目は、教職に就くために何をどう努力したらよいか、その具体的な方途を得ることを目標としている。講義の内容は、教職教養関連の科目、専門科目、小論文、集団討論等から成る。また、12月に模擬試験（教職教養）の受験体験を組み入れ、教員としてのキャリア形成の一助となるようにはかっている。本科目の受講を手がかりにして教職へのキャリアを築くことができるよう、積極的に勉学に励むことを期待する。			
達成目標	①教員としてのキャリア形成を構築することができたか。 ②教員採用選考に向けて自己の実力を認識することができたか。			
受講資格	原則として、本学教職課程履修者の内、大学3年生、短大1年生、卒業生を対象とする。	成績評価 方法	平常点による「認」評価	
教科書	特に指定はない。毎回、各担当教員が資料等を配布する。			
参考書	『教育小六法』（最新版） 志望校種の『学習指導要領』			
学生への要望	採用試験は、各都道府県によってさまざまであるため、各自の自主的な勉学が必要である。本科目の受講が勉学の指針となるように、授業への積極的な参加を望む。 常に受け身の姿勢ではなく、主体的、積極的な姿勢で授業に望んでほしい。			
オフィスタイム	月曜Ⅲ限（12:50～14:20） 木曜Ⅱ限（10:30～12:00） 場所：教職課程推進室 そのほかの時間帯の希望を含め、事前にkunitomo@koryama-kgc.ac.jpにご連絡ください。			
自学自習	事前学習：当日の内容をテキストで確認しておくこと（1時間） 事後学習：授業を踏まえて、レジュメを使ったノートまとめ（1時間）			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	オリエンテーション	授業内容、自学の仕方、教員採用試験に関する説明を聞く。志望都道府県調査表を記入する。 担当：佐久間
2	教育原理	過去問を解くことを通して、出題傾向を知る。 担当：佐久間
3	教育法規	過去問を解くことを通して、出題の傾向を知る。 担当：佐久間
4	教科別指導①	過去問を解くことを通して、出題傾向を知る。 担当：（家庭）難波、（栄養）菊池、（音楽）磯部、（美術）黒沼
5	教科別指導②	各専門教科について、基礎的な知識を身につける。 担当：（家庭）難波、（栄養）菊池、（音楽）磯部、（美術）黒沼
6	教科別指導③	各専門教科について、基礎的な知識の理解を深める。 担当：（家庭）難波、（栄養）菊池、（音楽）磯部、（美術）黒沼
7	特別支援教育	過去問を解くことを通して、出題傾向を知る。 担当：小林
8	教育心理	過去問を解くことを通して、出題傾向を知る。 担当：折笠
9	教育時事	過去問を解くことを通して、出題傾向を知る。 担当：佐久間
10	模擬試験	模擬試験の受験体験をする。 担当：佐久間
11	模試フォローアップ	模擬試験を振り返るとともに、克服すべき点を確認する。 担当：佐久間
12	小論文	論理的に文章をまとめ上げる基本を知り、添削を受ける。 担当：小阪
13	個人面接	教職をなぜ目指すのか。面談の体験を通して教職への意識を高める。 担当：小林、折笠、亀田、富士盛
14	集団討論	グループで結論を導き出す体験を通して、討議とは何かを知る。 担当：小林、折笠、亀田、富士盛
15	採用試験の申込について	採用試験の手続き、提出書類について知る。 担当：佐久間

平成29年度

科目名	教職キャリアデザインⅡ		対象 単位数 必修	短期大学部 家政科福祉情報専攻 2年 2単位 選択/短期大学部 音楽科 2年 2 単位 選択/短期大学部 生活芸術科 2年 2単位 選択
担当教員	佐久間 邦友			
開講期	Ⅲ			
授業概要	教職キャリアデザインⅡは、建学の精神に則り、教員としてのキャリア形成を目指す学生を対象にした科目である。本科目は、実践的な力をつけることをねらいとしている。 講義は、教職教養関連の科目、専門科目、小論文、集団討議等から成る。 また、4、5月に行われる模擬試験（教職教養）の受験をとおして、自己の実力を知り、キャリア形成の一助となるようにした。本科目の受講をとおして、これまでの勉学がより一層促進されることを期待する。			
達成目標	①教員としてのキャリア形成を構築することができたか。 ②教員採用選考に向けて自己の実力を認識することができたか。			
受講資格	原則として、本学教職課程履修者の内、大学4年生、短大2年生、卒業生を対象とする。	成績評価 方法	平常点により「認」評価。	
教科書	特に指定はしない。毎回、担当教員が適宜資料を配付する。			
参考書	『教育小六法』（最新版） 志望校種の『学習指導要領』			
学生への要望	本科目の受講をとおして各自の勉学の指針となるよう積極的に受講されることを希む。			
オフィスタイム	月曜Ⅲ限（12:50～14:20） 木曜Ⅱ限（10:30～12:00） 場所：教職課程推進室 そのほかの時間帯の希望を含め、事前にkunitomo@koriyama-kgc.ac.jpにご連絡ください。			
自学自習	事前学習：当日の内容をテキストで確認しておくこと（1時間） 事後学習：授業を踏まえて、レジュメを使ったノートまとめ（1時間）			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	オリエンテーション	授業内容の説明を聴く。教員採用の現状を知り、個別相談を受ける。 担当：佐久間
2	模擬試験	模擬試験を経験することによって、現在の実力を知る。 担当：佐久間
3	模試フォローアップ	模擬試験を振り返ることによって、自身の弱点を知り、更なる勉学の進展を図る。 担当：佐久間
4	小論文	自己の教育に対する考えを、論理的にまとめる練習をする。 担当：小阪
5	特別支援教育	過去問を解くことをとおして、知識の理解を深め、実力の向上を図る。 担当：小林
6	教育原理	過去問を解くことをとおして、知識の理解を深め、実力の向上を図る。主として、教育思想、教育史。 担当：佐久間
7	教育法規	過去問を解くことをとおして、知識の理解を深め、実力の向上を図る。 担当：佐久間
8	教科別指導①	各専門教科において、現在、教育現場でなされている実践やカリキュラム等について幅広い知識を身につける。 担当：（家庭）難波、（栄養）菊池、（音楽）磯部、（美術）黒沼
9	教科別指導②	各専門教科において、現在、教育現場でなされている実践やカリキュラム等について知識を深める。 担当：（家庭）難波、（栄養）菊池、（音楽）磯部、（美術）黒沼
10	教科別指導③	各専門教科において、現在、教育現場でなされている実践やカリキュラム等について、これまで得た知識の理解を深め、実力の向上を図る。 担当：（家庭）難波、（栄養）菊池、（音楽）磯部、（美術）黒沼
11	模擬試験	模擬試験の経験をとおして、現在の実力を知る。 担当：佐久間
12	教育時事	現在、教育現場で話題となっていることを知り、文部科学省の方針の理解を深める。 担当：佐久間
13	模試フォローアップ	模擬試験を振り返ることによって、弱点をチェックする。 担当：佐久間
14	個人面接	自己をPRする力をつけるとともに、教職への意識を高める。グループで結論を導き出す体験をとおして、討議の力を高める。 担当：小林、折笠、亀田、富士盛
15	集団討議	グループで教育に関する課題について、ある結論を導き出す体験をとおして、他者と討議する力を高める。 担当：小林、折笠、亀田、富士盛

科目名	教職論		対象 単位数 必修	短期大学部 家政科福祉情報専攻 1年 2単位 選択/短期大学部 生活芸術科 1年 2単位 選択/短期大学部 音楽科 1年 2単位 選択
担当教員	佐久間 邦友			
開講期	I			
授業概要	<p>〔授業の目的・ねらい〕 授業のねらいは、教職についての基本事項(教職の意義、教員の役割等)を把握し、現行教員養成制度の原理とその課題について理解し、それに対応する力を身につけ、自らが教育の専門職としての教師像・観を形成できることを到達目標とする。</p> <p>〔授業全体の内容の概要〕 授業は、基本講義形式で行うが、小レポートの作成、VTRの視聴、授業内での活動・意見交換等のグループワークも設ける。また現役の教員をゲストスピーカーとして招き、講演会を開催する予定である。</p>			
達成目標	<p>①教職の意義や教師の役割、責務をどの程度理解できたのか。 ②教師に求められる資質能力を理解し、己の教師観を確立することができたか。 ③現代の教育課題について理解することができたのか。</p>			
受講資格	教職等に就くことを希望する者	成績評価 方法	試験(70%)、レポート(20%)、授業参画度(10%)	
教科書	佐藤晴雄『教職概論 第4次改訂版』学陽書房 2015年			
参考書	授業中に適宜紹介する。			
学生への要望	常に受け身の姿勢ではなく、主体的、積極的な姿勢で授業に望んでほしい。			
オフィスタイム	<p>月曜Ⅲ限(12:50~14:20) 木曜Ⅱ限(10:30~12:00) 場所：教職課程推進室 そのほかの時間帯の希望を含め、事前にkunitomo@koriyama-kgc.ac.jpにご連絡ください。</p>			
自学自習	<p>事前学習：当日の内容をテキストで確認しておくこと(1時間) 事後学習：授業を踏まえて、レジュメを使ったノートまとめ(1時間)</p>			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	オリエンテーション	1. 授業に関するガイダンス 2. 教師の影響力を考える
2	ドラマの中の教職観と理想の教師像	1. 学習者にとっての理想の教師像 2. テレビドラマから見た理想の教師像 3. ドラマ教師の条件
3	体験の中の教職観と理想の教師像	1. 教師像をめぐる問題 2. 日本の伝統的な教師像 3. 教師観の変遷から見た理想の教師像
4	教職の意義	1. 教職とは何か 2. 教職の意義
5	教師と教員養成の歴史	1. 師範学校における教員養成 2. 戦後の教員養成制度 3. 教員免許制度改革の動向―「学び続ける教師」―
6	教員の任用と服務	1. 教員の配置と任用 2. 教員の身分と任用 3. 教員の服務 4. 身分保障と分限・懲戒 5. 勤務条件
7	教師の役割と仕事(1)	1. 教師の法的役割と役割意識 2. 教師の仕事の特質と内容
8	教師の役割と仕事(2)	1. 教師の仕事の実際 2. 生涯学習社会における教師への期待
9	管理職・主任の役割	1. 校長の役割と権限 2. 副校長・教頭の役割のリーダーシップ 3. ミドルリーダーの機能 4. 管理職試験
10	教師の職場環境	1. 教師の勤務実態 2. 教師の悩みと不満 3. 学校での人間関係 4. 教師のライフサイクル
11	専門職としての教師	1. 教師の資質・能力 2. 他業種との比較からみる専門職としての教師
12	教師の資質向上と研修	1. 教師の力量形成と研修制度 2. 教員免許更新制度
13	教育実習の意義と心得	1. 教育実習の意義 2. 教育実習の心得 3. 学習指導案と授業の実際
14	教職への進路選択と教員採用選考	1. 進路選択 2. 教員採用試験の実態 3. 教員採用試験の傾向と対策
15	面接・模擬授業	1. 面接対策 2. 模擬授業

科目名	教育原理		対象 単位数 必選
担当教員	石堂 常世、佐久間 邦友		
開講期	I		
授業概要	<p>本授業は教職課程必修科目のうちのもっとも基本となる科目であり、受講生たちが教育の原理や理念、教育の歴史や思想に関する基本的理解を深めて教育の全体と課題を把握することを目標とする。受講生は、これまでほぼ無意識に教育を受けてきた立場から転じて、今後は人間の発達や知育や徳育の問題について教育思想や教育法制度、教育行政の理解をすることで、教育について客観的視点から学習するようになる。その場合、学校教育の在り方をとくに深く考察し、教職という職責の意義と責任について自覚を高めていく。こうして、教育に対する上記の視点の転換によって、教育の原理・本質を、歴史的考察と合わせて、国際比較の観点からも幅広く理解できるようになるであろう。</p> <p>さらに受講生は、教員として求められる実践的教養を身につけていくことが求められる。とりわけ、教育法規、教育課程、教育行政については具体的に正確に理解し、学校教育の骨格について理解を深めると同時に、教育や子どもを取り巻く時事問題へも精通するようになり、教職に対する前向きなスタンスを培うようにする。</p> <p><履修カルテの評価項目：到達目標></p> <p>①教育の目的とは何かについて考察をするが、その場合、歴史的練磨を経てきた教育の古典的思想や子ども観、発達観、学習観の理論に触れて、人間の成長の意味を考えることができたか。</p> <p>②自己体験からだけでなく、社会的・行政的、制度的角度から教育について理解することができるようになったか。</p> <p>③学校・学級に関する問題意識を高めることができたか。</p> <p>④マスコミで話題になる学校教育や子どもの問題について、表面的にはなく、原理的に考察できるようになったか。</p>		
達成目標	<p><履修カルテの評価項目：到達目標></p> <p>①教育の目的とは何かについて考察をするが、その場合、歴史的練磨を経てきた教育の古典的思想や子ども観、発達観、学習観の理論に触れて、人間の成長の意味を考えることができたか。</p> <p>②自己体験からだけでなく、社会的・行政的、制度的角度から教育について理解することができるようになったか。</p> <p>③学校・学級に関する問題意識を高めることができたか。</p> <p>④マスコミで話題になる学校教育や子どもの問題について、表面的にはなく、原理的に考察できるようになったか。</p>		
受講資格	短期大学部 家政科福祉情報専攻 1年 2単位 選択 短期大学部 生活芸術科 1年 2単位 選択 短期大学部 音楽科 1年 2単位 選択	成績評価 方法	①授業中に1～2回レポートを課し、次回の授業で発表・意見交換を行う。レポートの評価が10% ②学期末筆記試験の結果が80% この2つの総合点に、授業中の積極性が見られた場合は加算、欠席等が多い場合やレポート提出がない場合は減点措置をとる。
教科書	教科書は特に定めない。 その代わりに、毎回の授業にはその日の授業内容を詳述したレジメ（内容の中身）を配布するので、それらを「教育原理」専用ファイルに綴じ、授業の際には必ず持参し、試験前にはしっかり再読して、常に理解を深めること。 尚、以下の参考書の欄を参照。		
参考書	①第1の参考書は、安彦忠彦・石堂常世編著『最新教育原理』勤草書房、2016版、2,200円＋税。希望者には80%にて取り寄せます。 ②一般参考書となる文献は、『教育法規』や『文部科学白書』、『子ども・若者白書』などの公的資料や分野別研究書など、多数あります。いずれにしても、授業中に教えます。 それら指定資料は、おおむね図書館に揃えてあります。		
学生への要望	<p>講義形式を大切にしながら、同時に提出レポートを活用した発表や、教育的テーマをめぐるアクティブな意見交換の形式を導入することで、教育問題への考察を習慣づける。したがって、受講生には主体的な学習を求める。</p> <p>1 学問的要望</p> <p>教育の原理となっている教育思想や教育行政には、先ず歴史的系譜というものがああり、それを理解することが必要である。各思想間には相違や見方の対立があるので、その対立構造や文脈を理解することで主要な教育思想や特徴を把握していくならば、歴史的に知られている教育思想や教育論を生き生きと理解することができる。</p> <p>授業中に出てくる思想家、哲学者、教育実践家（学校をつくって教育にあたった人物）については、その次の授業までに可能な限り教育学辞典や世界人名事典、インターネット等で調べて確認し、それらのコピーを取っておいて知識を確実にしよう。</p> <p>2 守るべきこと</p> <ul style="list-style-type: none"> ・毎回の授業には清新な気持ちで臨み、新しい内容を発見し、自分を作り上げていってほしい。 ・参考書は授業中に指示するが、教科書は定めない。毎回配布される授業内容のレジメや資料を必ずファイルにして綴じておき、それを大切に保存し、毎回の授業に、そのファイルを持参すること。 ・授業に対しては真摯な気持ちで臨み、授業開始時と終了時の礼儀（挨拶）を軽視しないこと。 ・レポートを出された場合は、既定の日（大抵は翌週の授業時）に必ず提出すること。定期試験前に慌てて過去のレポートを提出しても認められない。通常はA4の用紙に印字してくること。 ・授業開始時には、机の上に決して飲食物を出しておかないように重た心がけること。 		
オフィスタイム	随時、時間のあるときに受け入れるので、相談希望の場合、メールで確認のアポをとること。 石堂：ishidoh@koriyama-kgc.ac.jp 佐久間：kunitomo@koriyama-kgc.ac.jp 即時にメールで日時や面談場所を返信し、確認し合って質問、相談に応じます。		
自学自習	当然ながら、授業中に出された調べ学習は自学的「予習」となる。授業後の内容理解の「復習」は、教育を見る目を発展的に伸ばしてくれる。教育を見る目に変化が出てくるはずである。		

～授業内容とスケジュール～

回	項目	授業内容
1	導入：教職という仕事と教育について学ぶことの意味	主観的体験・主観的見方から客観的見方への転回へ 1 家庭教育という人間形成の基盤 レポート（次回提出）「私の受けた家庭教育の意義」 2 学校・社会から見た教育の構造 家庭教育、学校教育、社会教育 3 教育学の構造を知る 教育を考察する多面的・総合的領域 教育実践の位置

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
2	「教育」の意味に関する思想的アプローチ	1 レポート「私がうけた家庭教育の意義」の発表・意見交換 本論 1 教育の意味をどうとらえるか 消極的教育と積極的教育の意味 教育educationの語彙からさぐる教育の原理 2 人間の成長の本質を考える 植物の成育、動物の飼育と成長、 そして人間の成長
3	子どもを取り巻く環境の変化と今日的課題	1 発達の問題、親の変化・家庭の変化 2 生活の変化と子どもへの影響関係 3 地域の教育力 郡山市教育委員会の試み 4 子どもの主体性と自律性をどう育てるか 5 グローバル時代の教育観：地球市民育成論 6 学校が担うあらたな役割 子どもの貧困問題の中で
4	西洋の教育思想を学ぶ：① 古典の部	1 イデアリズム（観念論）の人間像と教育観 ギリシャ時代：ソクラテス、プラトン、アリストテレス、 近世～近代：モンテーニュ、カント、アラン等の系譜 2 宗教的教育観 聖書の教えと、アウグスティヌス、 トマス・ア・ケンピス、コメニウスのパターン 3 感覚論的教育思想（科学的人間観の教育論） ロック
5	西洋の教育思想を学ぶ：② 近世～現代の部	4 子ども中心の教育思想：「新教育」の教育思想 子どもの成長そのものを教育とみる考え方 ルソー、エレン・ケイ、ピアジェ、デューイの系譜 5 社会の継承発展の機能としての教育観 国家の管轄下に置かれた20世紀の学校と教育の機能 デュルケイム とくに、1945年以降の教育社会学の影響 6 学校崩壊論：「学校のない社会」という思想の求めていること 管理主義型学校教育への批判と解放論 他方、不登校児童・生徒の増加の問題 復習：主要な教育論者の著作の主張点を振り返る。
6	日本の教育思想	1 江戸時代末までの教育観：日本人の精神的骨格 「実語教」に学ぶ人間の熟成：儒教的人間像 2 「教育勅語」に支配された戦前までの教育：近代国家への躍動の中の学校教育 3 「教育基本法」と戦後の教育：アメリカ型学校教育の受容とそれらの変化 4 経済発展の中の受験体制と偏差値という重圧
7	学習指導要領と学校教育の展開	1 学習指導要領とは何か：教育法令の基礎から理解する 2 教育課程（カリキュラム）編成の在り方 教科の構造・学習の構造 学問的系統性と子どもの自主性・関心の相克 思想研究：ヘルバルトとデューイの相違 コンピューター活用の授業と学習形態の変化 3 国際比較からみたカリキュラム編成のあり方 教育行政の在り方との特色 4 今日の学力の国際比較とそれがもたらしたこと
8	教育法規の体系	1. 日本国憲法 2. 教育基本法 3. 学校教育法・同施行規則
9	日本の教育制度と行政	1. 学校教育制度 2. 社会教育・生涯学習制度 3. 教育行政システム
10	学校制度の類型	1. 学校制度の類型—単線型と複線型— 2. 他国の教育制度 3. 私教育と公教育の違い
11	「学校」という空間	1. 学校・教室の風景 2. フリースクール 3. 子供の放課後活動の変遷
12	生涯学習社会	1. 戦後の社会教育制度 2. 生涯学習への移行 3. 学校支援ボランティアなどのボランティアの現状
13	教育改革の背景と実際	1. 今日の学校を取り巻く状況の変化 2. 教育改革の過程 3. 教育改革とアクター
14	日本社会が抱える教育に関する病理（1）	1. 子供の貧困

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
15	日本社会が抱える教育に関する病理（2）□	1. 教員の多忙化 2. モンスターペアレント 3. 授業後半のまとめ

平成29年度

科目名	教育心理		対象 単位数 必選	短期大学部 家政科福祉情報専攻 1年 2単位 選択/短期大学部 生活芸術科 1年 2単位 選択/短期大学部 音楽科 1年 2単位 選択
担当教員	折笠 国康			
開講期	I			
授業概要	教育心理学は、教育活動をより効果的に行うための心理学的な知見や技術を提供する学問である。本科目を通して、より効果的な教育実践が可能となる教育に関する心理学的な知識や方法を理解することを目標とする。			
達成目標	①認知や感情などの「心の発達」に関する基本概念をどの程度理解できたか。 ②「自己」に関する基本概念をどの程度理解できたか。 ③近年の教育現場で問題となっている事柄をどの程度理解できたか。			
受講資格	短期大学部 家政科 福祉情報専攻 1年 短期大学部 生活芸術科 1年 短期大学部 音楽科 1年	成績評価 方法	授業内容の「80%程度」の理解が必要。理解度の評価は、授業の参加の様子やリアクションシート30%、定期試験70%で行う。	
教科書	特に指定はない。			
参考書	講義の中で、適宜紹介する。			
学生への要望	講義への協力的な参加を要望する。			
オフィスタイム	金曜 2限 835 3限 835			
自学自習	関連文献などを利用して理解を深めること。			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	オリエンテーション、教育心理学とは	この授業の目的と授業方針を理解する。心理学的な思考や考察が果たす役割を理解する。認知心理学の基礎を学び、認知に対する認識について理解する。
2	自己に関わる心理学（1）	アイデンティティ、自己評価、自尊感情の概念を理解し、自己を心理学的に理解する。
3	自己に関わる心理学（2）	アイデンティティ、自己評価、自尊感情の概念を理解し、自己を心理学的に理解する。
4	自己に関わる心理学（3）	本当の自尊感情、本当の自分について心理学的に理解する。
5	記憶と思考（1）	人間の記憶と思考のメカニズムについて理解する。
6	記憶と思考（2）	人間の記憶と思考のメカニズムについて理解する。
7	動機づけの心理学（1）	人間の動機づけについての知見を概観し、動機づけを心理学的に理解する。 内発的動機づけに関する自己決定理論の概略を理解する。
8	動機づけの心理学（2）	人間の動機づけについての知見を概観し、動機づけを心理学的に理解する。 内発的動機づけに関する自己決定理論の概略を理解する。
9	学級の心理学（1）	理想の学級の姿や学級の機能、全国的な学級の様子や課題について理解する。 学級アセスメントについて理解する。
10	学級の心理学（2）	理想の学級の姿や学級の機能、全国的な学級の様子や課題について理解する。 学級アセスメントについて理解する。
11	学級の心理学（3）	理想の学級の姿や学級の機能、全国的な学級の様子や課題について理解する。 学級アセスメントについて理解する。 アクティブラーニングと学級集団の関係を理解する。
12	勇気と勇気づけの心理学	自主自立の姿の達成、人生を主体的に生きるために必要な勇気と勇気づけについて理解する。
13	アドラー心理学（1）	アドラー心理学を概観し、人間の行動に関しての目的について理解する。 また、人生を主体的に生きるための知見について理解する。
14	アドラー心理学（2）	アドラー心理学を概観し、人間の行動に関しての目的について理解する。 また、人生を主体的に生きるための知見について理解する。
15	本講義のまとめ	本講義の内容を振り返り、心理学的な知見のまとめを行う。

科目名	教科教育法Ⅰ（音楽）		対象 単位数 必選	短期大学部 音楽科 1年 2単位 選択
担当教員	磯部 哲夫			
開講期	Ⅰ			
授業概要	<p>〔授業の目標・ねらい〕</p> <p>①教育課程を編成するための国としての基準である中学校学習指導要領を十分に理解する。 ②学習指導要領に則った教材研究、学習指導案を作成できるようにする。 ③学習指導案を基に、生徒が理解できる授業が展開できるようにする。</p> <p>〔授業全体の内容の概要〕</p> <p>①中学校学習指導要領を熟読し、小テストを実施し理解を深めていく。 ②学習指導要領に則った学習指導案の事例を基に、作成手順を理解し指導案を作成する。 ③学習指導案に則った授業が展開できるように、模擬授業の実践を重ねていく。</p>			
達成目標	<p>〔授業修了時の到達目標〕</p> <p>国の指針である学習指導要領を基に、一貫した教材研究、学習指導案作成、授業の展開を身に付け、来年度の教育実習に向けての教科教育法を習得する。</p> <p>①中学校学習指導要領が理解できたか。 ②中学校学習指導要領を基に教材研究をし、一貫性のある学習指導案作成ができたか。 ③学習指導案に沿った模擬授業の実践ができたか。</p>			
受講資格	音楽科1年	成績評価 方法	小テスト40点 学習指導案を作成し模擬授業60点	
教科書	中学生の音楽1、2・3上下、中学生の器楽 教育芸術社 中学校学習指導要領解説 文部科学省 中学校・高等学校教職課程 音楽科教育法 教育芸術社			
参考書	特になし			
学生への要望	①中学校学習指導要領解説を熟読すること。 ②レポート等で論理的な文章を書く習慣をつけること。 ③新聞等を読む習慣を身につけ、常に教育時事の把握に努めること。 ④常に教える立場になることを意識し、教員志望の自覚をしっかりと持つこと。			
オフィスタイム	月・水曜日のV限、木曜日のⅡ・Ⅳ限 No.1音楽科研究室			
自学自習	予習：シラバイを参考に、参考文献を読み当日の内容を文章にまとめること（1時間） 復習：課題に対し更に調査・研究し整理しておくこと（1時間）			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	オリエンテーション・中学校学習指導要領解説1	<ul style="list-style-type: none"> ・本科目についての講義の進め方についての説明。 ・教員という仕事と就職についての説明。 ・近年における福島県中学校音楽の教員採用状況について解説する。 ・学習指導要領音楽 第1章 総説 1. 改訂の経緯について解説する。
2	中学校学習指導要領解説2	<ul style="list-style-type: none"> ・第1章の総説より、中教審の答申においての、小・中・高等学校を通じる音楽科の改善の基本方針に基づき、音楽科改訂の趣旨と改訂の要点を解説する。 ・第2章より、音楽科の目標及び内容、音楽科の目標について解説する。
3	中学校学習指導要領解説3	<ul style="list-style-type: none"> ・音楽科の目標、各学年の目標の小テストを実施する。 ・音楽科の内容より、内容の構成、表現領域と鑑賞領域の内容、共通事項の内容について解説する。
4	中学校学習指導要領解説4	<ul style="list-style-type: none"> ・第3章より、各学年の目標及び内容、第1学年の目標とA表現、B鑑賞の指導内容を詳しく解説する。
5	中学校学習指導要領解説5	<ul style="list-style-type: none"> ・第3章より、各学年の目標及び内容、第2・3学年の目標とA表現、B鑑賞の指導内容を詳しく解説する。 ・第4章より、指導計画の作成と内容の取扱いについて解説する。
6	教材研究1	<ul style="list-style-type: none"> ・各学年の目標及び内容について的小テストを実施する。 ・歌唱領域の教材研究の方法を「夏の思い出」を例に解説し、各自華僑共通教材の教材研究に取り組む。
7	教材研究2	<ul style="list-style-type: none"> ・歌唱共通教材の教材研究について各自提出しグループ協議を実施する。 ・教材研究を基にした学習指導案の作成と手順について解説する。
8	学習指導案作成・1	<ul style="list-style-type: none"> ・指導計画と内容の取扱いについて的小テスト（前編）を実施する。 ・「夏の思い出」を題材とした学習指導案を作成する。
9	学習指導案作成・2	<ul style="list-style-type: none"> ・指導計画と内容の取扱いについて的小テスト（後編）を実施する。 ・「夏の思い出」を題材とした学習指導案を作成し、模擬授業準備を行う。
10	歌唱教材による模擬授業・	<ul style="list-style-type: none"> ・歌唱共通教材による学習指導案に基づき模擬授業を行う。40分×2人
11	歌唱教材による模擬授業・2	<ul style="list-style-type: none"> ・歌唱共通教材による学習指導案に基づき模擬授業を行う。40分×1人 ・歌唱共通教材の指導ポイントを解説する。
12	器楽教材による模擬授業・	<ul style="list-style-type: none"> ・リコーダー教材による学習指導案に基づき模擬授業を行う。40分×2人
13	器楽教材による模擬授業・2	<ul style="list-style-type: none"> ・リコーダー教材による学習指導案に基づき模擬授業を行う。40分×1人 ・リコーダー教材の指導ポイントを解説する。
14	鑑賞教材による模擬授業・	<ul style="list-style-type: none"> ・鑑賞教材による学習指導案に基づき模擬授業を行う。40分×2人
15	鑑賞教材による模擬授業・2	<ul style="list-style-type: none"> ・鑑賞教材による学習指導案に基づき模擬授業を行う。40分×1人 ・鑑賞教材の指導ポイントを解説する。

科目名	教科教育法Ⅱ（音楽）		対象 単位数 必選	短期大学部 音楽科 1年 2単位 選択
担当教員	磯部 哲夫			
開講期	Ⅱ			
授業概要	<p>〔授業の目標・ねらい〕</p> <p>①リコーダーと和楽器である琴の演奏法、指導法を修得する。 ②学習指導要領に則った学習指導案を作成し、歌唱、器楽、創作、鑑賞の分野で、生徒が理解できる授業を展開できるようにする。</p> <p>〔授業全体の内容の概要〕</p> <p>①リコーダーの演奏法やアンサンブル、琴の奏法を身に付け楽曲を演奏する。 ②歌唱、器楽、創作、鑑賞の各分野において学習指導案に則った授業が展開できるように、模擬授業の実践を重ねていく。</p>			
達成目標	<p>〔授業修了時の到達目標〕</p> <p>中学校の教育現場で最も多く取り扱われている楽器であるリコーダーの指導法を身に付け、また日本の伝統音楽である和楽器の奏法を身に付ける。国の指針である学習指導要領を基に、一貫した教材研究、学習指導案作成、授業の展開を身に付け、来年度の教育実習に向けての教科教育法を習得する。</p> <p>①アルトリコーダーの演奏法を習得できたか。 ②和楽器の種類や音色、構造を理解し、琴の演奏法を習得したか。 ③学習指導案を作成し、それを基に計画的な模擬授業ができたか。</p>			
受講資格	音楽科1年	成績評価 方法	アルトリコーダー実技試験30点 学習指導案を作成し模擬授業70点	
教科書	中学生の音楽1、2・3上下、中学生の器楽 中学校学習指導要領解説 中学校・高等学校教職課程 教科教育法 アルトリコーダー			
参考書	特になし			
学生への要望	早い段階でそれぞれの分野の演奏法を習得し、本科目の目標である指導法の習得を目指すこと。			
オフィスタイム	月・水曜日のⅤ限、木曜日のⅡ・Ⅳ限 音楽科研究室			
自学自習	予習：シラバイを参考に、アルトリコーダーの楽曲演習、楽曲研究に基づいた学習指導案を作成すること（1時間） 復習：課題に対し更に調査・研究し整理しておくこと（1時間）			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	オリエンテーション・アルトリコーダー・1	・本科目についての流れについての説明。 ・アルトリコーダーの姿勢と構え、タンギングを習得し、楽曲を演奏する。 【事前】「中学生の器楽」P.6~7の姿勢とタンギング、楽曲を練習しておくこと（1時間） 【事後】タンギング、授業で取り上げた楽曲をもう一度練習すること（1時間）
2	アルトリコーダー・2	・アルトリコーダーのタンギングポイント、運指を習得し楽曲を演奏する。 ・アルトリコーダーによるアンサンブル練習。 【事前】「中学生の器楽」P.8~11の運指、楽曲を練習しておくこと（1時間） 【事後】運指を確認し授業で取り上げた楽曲を練習すること（1時間）
3	アルトリコーダー・3	・アルトリコーダーの#、b系の運指を習得し、楽曲を演奏する。 ・アルトリコーダーによるアンサンブル練習。 【事前】「中学生の器楽」P.12~15の楽曲を練習しておくこと（1時間） 【事後】#、b系の運指を確認し、授業で取り上げた楽曲を練習すること（1時間）
4	アルトリコーダー・4	・クラシック、ポップス等の様々なジャンルの楽曲をアルトリコーダーで演奏する。 ・アルトリコーダーによるアンサンブル練習。 【事前】前回授業終了時に配布された楽曲を練習しておくこと（1時間） 【事後】様々な運指を確認し授業で取り上げた楽曲を練習すること（1時間）
5	アルトリコーダー・5	・アルトリコーダー演奏のまとめ。 ・アンサンブル小テストを実施する。 【事前】第1~4回で取り上げた楽曲を練習しておくこと（1時間） 【事後】アンサンブルテストを振り返り、反省点を考察し、リコーダー演奏をまとめること（1時間）
6	琴・1	・琴の構造について、弦の名前、調弦、座り方、奏法についての基本を習得する。 【事前】「中学生の器楽」P.24~27を読み、琴の構造、弦の名前、調弦、座り方、奏法について確認しておくこと（1時間） 【事後】琴の構造、弦の名前、調弦、座り方、奏法について確認し、ノート等にまとめておくこと（1時間）

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
7	琴・2	<ul style="list-style-type: none"> ・ 琴の奏法習得し楽曲を演奏する。また日本伝統音楽に親しみ、和楽器の響きを体感する。 【事前】 箏曲あるいは日本の伝統音楽を鑑賞し、楽曲特有の雰囲気を感じ、知覚しておくこと（1時間） 【事後】 様々な日本の伝統音楽を鑑賞し、楽曲特有の雰囲気を感じ、知覚し、日本の伝統音楽について探究すること（1時間）
8	歌唱共通教材による模擬授業・1	<ul style="list-style-type: none"> ・ 歌唱共通教材による学習指導案に基づいた模擬授業を行う。50分×1人 ・ 模擬授業についての協議を行う。 【事前】 歌唱教材の教材研究をして学習指導案を作成すること（1時間） 【事後】 協議をもとに反省点を考察し、提出用の学習指導案を完成させる（1時間）
9	歌唱共通教材による模擬授業・2	<ul style="list-style-type: none"> ・ 歌唱共通教材による学習指導案に基づいた模擬授業を行う。50分×1人 ・ 模擬授業についての協議を行う。 【事前】 歌唱教材の教材研究をして学習指導案を作成すること（1時間） 【事後】 協議をもとに反省点を考察し、提出用の学習指導案を完成させる（1時間）
10	器楽教材による模擬授業・1	<ul style="list-style-type: none"> ・ リコーダー教材による学習指導案に基づいた模擬授業を行う。50分×1人 ・ 模擬授業についての協議を行う。 【事前】 リコーダー教材の教材研究をして学習指導案を作成すること（1時間） 【事後】 協議をもとに反省点を考察し、提出用の学習指導案を完成させる（1時間）
11	器楽教材による模擬授業・2	<ul style="list-style-type: none"> ・ リコーダー教材による学習指導案に基づいた模擬授業を行う。50分×1人 ・ 模擬授業についての協議を行う。 【事前】 リコーダー教材の教材研究をして学習指導案を作成すること（1時間） 【事後】 協議をもとに反省点を考察し、提出用の学習指導案を完成させる（1時間）
12	創作による模擬授業・1	<ul style="list-style-type: none"> ・ 創作教材による学習指導案に基づいた模擬授業を行う。50分×1人 ・ 模擬授業についての協議を行う。 【事前】 創作教材の教材研究をして学習指導案を作成すること（1時間） 【事後】 協議をもとに反省点を考察し、提出用の学習指導案を完成させる（1時間）
13	創作による模擬授業・2	<ul style="list-style-type: none"> ・ 創作教材による学習指導案に基づいた模擬授業を行う。50分×1人 ・ 模擬授業についての協議を行う。 【事前】 創作教材の教材研究をして学習指導案を作成すること（1時間） 【事後】 協議をもとに反省点を考察し、提出用の学習指導案を完成させる（1時間）
14	鑑賞教材による模擬授業・1	<ul style="list-style-type: none"> ・ 鑑賞教材による学習指導案に基づいた模擬授業を行う。50分×1人 ・ 模擬授業についての協議を行う。 【事前】 鑑賞教材の教材研究をして学習指導案を作成すること（1時間） 【事後】 協議をもとに反省点を考察し、提出用の学習指導案を完成させる（1時間）
15	鑑賞教材による模擬授業・2	<ul style="list-style-type: none"> ・ 創作教材による学習指導案に基づいた模擬授業を行う。50分×1人 ・ 模擬授業についての協議を行う。 【事前】 鑑賞教材の教材研究をして学習指導案を作成すること（1時間） 【事後】 協議をもとに反省点を考察し、提出用の学習指導案を完成させる（1時間）

科目名	道徳教育の理論と方法		対象 単位数 必選	短期大学部 家政科福祉情報専攻 1年 2単位 選択/短期大学部 音楽科 1年 2 単位 選択/短期大学部 生活芸術科 1年 2単位 選択
担当教員	小阪 康治			
開講期	II			
授業概要	<p>現代人の道徳心がこれで大丈夫なのか、と多くの人が思っているでしょう。大震災の時には、人々の善意が至る所に見られて、人間の良い部分が現れていました。しかし同時に、いじめや不登校の問題、子どもだけでなくモンスター・ペアレントなどの難問も厳然と存在し、教員はこれらに対応しなければなりません。</p> <p>人間は道徳心を確かに持っている。しかしそれが現れていない状況が非常に多い。したがって、道徳心とはどういうものか、それをどんなふう育てていくのか、教室で実際にどう教えるか。これがこの講義の目的であり、教育法を教わって、考えるだけでなく、体得して教室で教えられるようにしておくための時間です。</p> <p>したがってこのような授業は、きちんとした一定の形があるわけではありません。自分で生徒の状態や工夫の状態や興味を観察しながら、工夫して、進めていかなければなりません。</p> <p>あくまで現場で授業に臨むときの授業の組み立て、実際の練習が目的なので、各自の自発的、積極的な参加や発言がないと、この講義は成り立ちません。自発性がないことは授業を欠席しているのと同じことだという気持ちで参加して下さい。</p> <p>〔履修カルテの評価項目〕</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 道徳教育の主題の選択についてどの程度理解できたか。 ② 道徳教育の方法についてどの程度理解できたか。 ③ 道徳についてどの程度理解できたか。 			
達成目標	<p>現代人の道徳心がこれで大丈夫なのか、と多くの人が思っているでしょう。大震災の時には、人々の善意が至る所に見られて、人間の良い部分が現れていました。しかし同時に、いじめや不登校の問題、子どもだけでなくモンスター・ペアレントなどの難問も厳然と存在し、教員はこれらに対応しなければなりません。</p> <p>人間は道徳心を確かに持っている。しかしそれが現れていない状況が非常に多い。したがって、道徳心とはどういうものか、それをどんなふう育てていくのか、教室で実際にどう教えるか。これがこの講義の目的であり、教育法を教わって、考えるだけでなく、体得して教室で教えられるようにしておくための時間です。</p> <p>したがってこのような授業は、きちんとした一定の形があるわけではありません。自分で生徒の状態や工夫の状態や興味を観察しながら、工夫して、進めていかなければなりません。</p> <p>あくまで現場で授業に臨むときの授業の組み立て、実際の練習が目的なので、各自の自発的、積極的な参加や発言がないと、この講義は成り立ちません。自発性がないことは授業を欠席しているのと同じことだという気持ちで参加して下さい。</p> <p>〔履修カルテの評価項目〕</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 道徳教育の主題の選択についてどの程度理解できたか。 ② 道徳教育の方法についてどの程度理解できたか。 ③ 道徳についてどの程度理解できたか。 			
受講資格	特になし		成績評価 方法	最終成績は、講義時間内での発表30%、学習指導の練習40%、指導案30%などで、最終成績とします。出席回数は学内規定通りです。その他の細々した評価方法については、すべて講義中に受講者の前で明確に述べます。教職関連講義なので、教師としての態度にも注意してください。
教科書	受講生と相談して決める。			
参考書	必要に応じて指示する。			
学生への要望	目的が教員採用試験と採用後の授業の練習なので、学生もその積りで講義に臨んで欲しい。学生諸君の興味、関心を聞きながら、社会状況に応じて、講義のテーマや内容、各テーマについての時間の配分などは、変更することもあります。			
オフィスタイム	火、水曜日昼休み。研究室			
自学自習	予習は発表者は学習指導案を丁寧につくる。発表者でない者は、その日の発表について、次回の発表の参考にする点を明確にしておく。			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	15回全体の内容についての説明	講義について。内容は1回ごとに完結させる。講義中の発言方法。私語について厳しく対応すること。試験の出題の仕方。成績評価の方法。試験の練習など。これらについて詳しく説明します。 準備しておくことの説明。各テーマを示してあるので、受講者も一応考えておくこと。グループ発表を各2回づつ行う予定なので、グループ分けをする。
2	恋愛について	愛と恋はどう違うか、同じクラスの異性が好きになったとき、どうすれば良いか。こういうことに悩んでいる生徒たちに、教師としてどういうアドバイスをすべきか。しかしこれは教えている教師の側の問題でもあります。自分ならどうするか、どうしたかを、差し支えない範囲で、体験も交えながら、指導する方法を考えます。
3	いじめについて	いじめは言うまでもなく良くないことです。しかし誰もがそう思っているのに、なぜなくなるのでしょうか。またいじめている子を、諭したとき、その子が逆にいじめられたと感じることもあるようです。それはその子の勝手な言い分でしょうか。それとも、言い方が悪かったのでしょうか。これも受講生の多くが、高校のころまでに体験したことでしょう。自分が見聞したことなども分析しながら、問題を研究します。
4	家族の絆	家族は本学の建学の精神の中心でもあります。なぜ家族がないといけなのか。家族と社会はどう違うか、家族によって何が守られるのか、などを挙げて考えてみます。 旅客機が墜落する直前に発信されたメールなどのいくつかの例を挙げながら、家族の絆について考えます。
5	グループ発表(第1グループ 1回目)	決めておいたグループ発表を行います。
6	グループ発表(第2グループ 1回目)	決めておいたグループ発表を行います。

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
7	優しさとは	ふつう人は優しさを求めます。優しさは人間関係を円滑にするし、優しい人が多くの人々から好かれるのも間違いありません。しかし優しさだけでは、人間同士の関係は馴れ合いの、いい加減なものになってしまう。優しさと厳しさの間のどこに線を引けばいいのでしょうか。厳しい優しさとはどのようなものなのでしょうか。厳しさとはほんとうに優しさなののでしょうか。
8	情報と噂	テレビや新聞、ラジオは情報源としては大変便利なものです。けれどもよく見ていると、同じ問題でも、番組によって、異なった意見を言っていることはしばしばあります。新聞もそうです。子どもたちの間ではただの噂話が、ひじょうに大事な判断材料になっているのがよく見かけられます。噂と情報を見分けることを教え、訓練しなければなりません。
9	論文練習	これまでの時間の内容について、論文練習をします。この練習の目的は、学生の側からは、①これまでの講義をどれだけ理解できているかを自分で振り返ってみる。②論文練習をすることで、学期末の試験の練習になる。③採用試験時の筆記試験の対策にもなる。 教える側からすると、①なによりだいたいなのは、自分の頭で物事を考えさせる訓練になる、②みんなで答案を検討するので、論文の書き方を具体的に理解させることができる、③教えたことをどれだけ理解しているかを点検できる、などです。これも教育法のひとつの実例です。
10	辞める理由	部活に入っている生徒で、部活は楽しいのだが、勉強と両立できないという悩みは、いつの時代の若者にも共通しています。 部活だけでなく、学校、会社を辞める人も沢山います。友達関係の断絶も、そのうちに入るかもしれません。やめるということは正しいことか。絶対にいけないという訳ではないでしょう。正しい辞め方と、いけない辞め方の区別はどこですのか、などを事例に応じて考えてみましょう。
11	グループ発表（第2グループ 2回目）	グループ発表の2回目を行います。
12	グループ発表（第1グループ 2回目）	グループ発表の2回目を行います。
13	道徳教育の根本原理について	これまでの、例を振り返りながら、なぜやさしさが必要なのか、なぜ家族の絆が求められるのか、なぜやめるのがいけないかなど、これらの問題の根本にある道徳の基本原則を考えてみます。
14	論文練習	次回の試験の練習をします。
15	本学期のまとめ	本学期の各自の発表をまとめて批評し、持参した授業案を批評する。

平成29年度

科目名	特別活動論		対象 単位数 必選	短期大学部 家政科福祉情報専攻 2年 2単位 選択/短期大学部 生活芸術科 2年 2単位 選択/短期大学部 音楽科 2年 2単位 選択
担当教員	折笠 国康			
開講期	Ⅲ			
授業概要	本講義では、学習指導要領における特別活動の位置づけを基に、昨今の学校現場での現実や特別活動に関する課題を理解することを目的とする。また、本講義を通して特別活動の望まれる姿や教師の指導のあり方についての考察を行うことも重要な目的とする。			
達成目標	①学校教育における教科外活動の意義と目的を理解する。 ②生徒をとりまく環境の実態を把握し、特別活動に求められるものを理解する。 ③理論を基にした学級経営の手法やアセスメントについて理解する。			
受講資格	中学校教諭の教員免許の取得を目指す学生	成績評価 方法	内容の「60%」の理解で合格とするが、「80%程度」の理解が望まれる。理解度の評価は小レポート30%、定期試験70%で行う。	
教科書	特に指定はない。授業の時に資料を配布する時がある。			
参考書	必要に応じて紹介する。			
学生への要望	講義への主体的、協力的な参加を要望する。 専用のノートを準備すること。			
オフィスタイム	金曜 2限 835 3限 835			
自学自習	関連図書などを利用して理解を深めること。			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	オリエンテーション 特別活動とは	この授業の目的と授業方針を理解する。特別活動とは何か、基礎的知識を理解する。
2	教育課程と特別活動 学習指導要領について	学習指導要領の変遷を通して、各時代における学校にかかわる問題について考え、理解する。
3	学校の現実 (1) 学力や学級の現実	客観的なデータに基づき、現在の学校の実態について理解する。主に学力や学級の状態についての理解を深める。
4	学校の現実 (2) 生徒の実態	客観的なデータに基づき、現在の学校の実態について理解する。主に生徒の生活の様子や実態についての理解を深める。
5	学校の現実 (3) 家庭や地域の実態	客観的なデータに基づき、現在の学校の実態について理解する。主に家庭環境や地域の実態についての理解を深める。
6	特別活動の実際(1) 学級のアセスメントⅠ	標準化された心理尺度などによる客観的な指標を基にした学級の状態のアセスメントを理解する。
7	特別活動の実際(2) 学級のアセスメントⅡ	標準化された心理尺度などによる客観的な指標を基にした学級の状態のアセスメントを理解する。
8	特別活動の実際(3) 生徒指導	学校で行われている生徒指導の実際や今後望まれる方向性などについて、客観的なデータや資料に基づいて理解する。
9	特別活動の実際(4) 特別支援と生徒指導	特別支援教育の在り方や基礎理解、実際の生徒指導場面での問題や課題などについての理解を深める。
10	特別活動の指導と教師のリーダーシップ(1)	特別活動における教師の果たす役割やあり方、実際の指導行動の状態、時代が求める望まれるリーダーシップについての理解を深める。
11	特別活動の指導と教師のリーダーシップ(2)	特別活動における教師の果たす役割やあり方、実際の指導行動の状態、時代が求める望まれるリーダーシップについての理解を深める。
12	アクティブラーニングと学級集団	理想の学級の姿や学級の機能、全国的な学級の様子や課題について理解する。 学級アセスメントについて理解する。 アクティブラーニングと学級集団の関係を理解する。
13	特別活動による、人格形成や自己実現の理論(2)	記憶と学習などに関わる基礎的な理論について理解する。人間のやる気にかかわる「動機づけ」の基本的な仕組みについて理解する。人間の自ら学ぶ意欲の発達を理解する。内発的動機づけに関する自己決定理論などの概略を理解する。
14	特別活動による、人格形成や自己実現の理論(3)	目的論的思考と決定論的思考の対比や、アドラー心理学の自己や他者理解の視点を理解する。
15	本講義のまとめ	本講義の振り返りを通して、特別活動の基礎知識と実際の活動を理解する。

科目名	生徒指導論	対象 単位数 必選	短期大学部 家政科福祉情報専攻 1年 2単位 選択/短期大学部 音楽科 1年 2 単位 選択/短期大学部 生活芸術科 1年 2単位 選択
担当教員	石堂 常世		
開講期	Ⅱ		
授業概要	<p>生徒指導とは、学校教育において全教職員が関わる校務のひとつであり、時代によってその名称は変化し、その内容にも若干の変化があった。先ず、学校教育の業務構造（領域と校務分掌）との関係で生徒指導とは何かを理解し、その後、歴史的展開の中での生徒指導の機能と意味を把握する。さらに、いじめや不登校、そして問題行動や非行が話題となってきた20世紀末から、生徒指導はその意味合いを、問題行動の予防と対策に重点化してきていること、そこで、どのような問題や課題が子どもたちを取り巻いており、どのような指導・対応が望まれるのかを学ぶ。</p> <p>また、これと合わせて、進路指導や教育相談の仕事についても、生徒指導の一環であるという認識のもとに、理解を深めていく。最終的に、教員になった場合に、子どもたちの実態についてたじろぐことなく、問題行動の予防と対処に、教職員間で協働して進めていけるよう、実践的理解を深めていきたい。</p> <p>【履修カルテの評価目標】</p> <p>①教師は、教科を教えるだけが仕事ではなく、子どもたちの人格を磨き、社会性を身につけさせ、独立した自立的な人間として形成することの力量と人間性をもつ必要があることを自覚できたか。</p> <p>②生徒指導主事の役割を認識できたか。また各教師は、生徒指導の個別相談に関して、カウンセラーの能力をもっている必要があることを理解できたか。</p> <p>③生徒指導は、教師1人ではできないこと、学校内の教師たちの協力体制があってこそ可能であり、学級・学校経営の在り方にも関わっている。ゆえに、生徒指導は、校長、副校長といった管理職はいうまでもなく、学年主任や養護教諭やスクール・カウンセラーとの連携が重要であることを理解できたか。</p> <p>④生徒指導は、非行予防・非行対策のみならず、子どもたちの健全育成のための教育プランと連動すること、その推進には、PTAを始め地域社会の人々や、教育委員会、警察の生活安全課少年係、民生委員の方々等との連携が必要となっており、地域の支援のもと学校全体で取り組む仕事となっていることが理解できたか。</p>		
達成目標	<p>【履修カルテの評価目標】</p> <p>①教師は、教科を教えるだけが仕事ではなく、子どもたちの人格を磨き、社会性を身につけさせ、独立した自立的な人間として形成することの力量と人間性をもつ必要があることを自覚できたか。</p> <p>②生徒指導主事の役割を認識できたか。また各教師は、生徒指導の個別相談に関して、カウンセラーの能力をもっている必要があることを理解できたか。</p> <p>毎回の授業終了時に、「出席票」を書かせるが、その中では、「本日の授業で学んだこと」、「本日の授業でもっと詳しく知りたいと思ったこと」、「これから調べてみたいと思ったこと」を記載させている。この記載内容を担当教授として読むが、各回の授業の到達目標の%が分かる。全体的に記載が曖昧な場合は、次回の授業で再度ポイントを教え、各学生が達成目標に届くように配慮している。</p> <p>③生徒指導は、教師1人ではできないこと、学校内の教師たちの協力体制があってこそ可能であり、学級・学校経営の在り方にも関わっている。ゆえに、生徒指導は、校長、副校長といった管理職はいうまでもなく、学年主任や養護教諭やスクール・カウンセラーとの連携が重要であることを理解できたか。</p> <p>④生徒指導は、非行予防・非行対策のみならず、子どもたちの健全育成のための教育プランと連動すること、その推進には、PTAを始め地域社会の人々や、教育委員会、警察の生活安全課少年係、民生委員の方々等との連携が必要となっており、地域の支援のもと学校全体で取り組む仕事となっていることが理解できたか。</p>		
受講資格	短期大学部 家政科福祉情報専攻 1年 2単位 教職必修 短期大学部 音楽科 1年2単位 1年2単位 教職必修 短期大学部 生活芸術科 1年2単位 教職必修 この授業を受けるには、教育原理、教育学原論、道徳教育論などを受講済みであることが望ましい。しかし、それがかなわない場合は、熱心に授業に取り組み、指示された参考文献を読み、かつ社会変化と子どもの変化の関心に注視しつつ、子どもの健全性とは何かを考えるように努めること。	成績評価 方法	レポートを2、3回とり、発表させる。さらに学期末の筆記試験がある。レポート20%、学期末試験80%で、総合点を出し、授業への取り組みが積極的な場合はそれに加算し、これと反対の場合は総合点から減点する。
教科書	・文部科学省『生徒指導提要』。但し、この公的参考文献は図や統計を載せていないので生徒指導の問題への理解を徹底させるため、石堂が毎回の授業でその授業内容のレジュメを配布する。このレジュメを1回目から15回目までしっかり専用のファイルに綴じ、それを教科書として所持していること。配布資料には、新聞記事をはじめ、関連資料のコピーも含まれる。これらも専用ファイルに綴じておくこと。		
参考書	無数にあるので、授業中にその都度紹介する。 『青少年白書』『子ども年鑑』等の公的文献は、図書館で確認すること。		
学生への要望	授業に際しては、前提として、公的認容欠席以外はすべて出席すること。万が一、欠席になる場合は、必ず担当教授のメールアドレス（下記のオフィスタイムを参照）に送信して知らせること。 以下は、具体的な注意と要望： ①授業中に飲食をしない。授業開始時に机の上に飲食物を出しておかない。 ②レポートは必ず指定の日までに提出する。 ③指名された場合には、積極的に前に出て発表等を行う。 ④他人の発表内容を傾聴し、質問等をして理解を深める。 ⑤毎回の授業で「なるほど」と理解を深め、楽しく授業を聴き、自分を高めていくこと。		
オフィスタイム	授業・会議のない日時ならいつでも来室（創学館5階副学長室）可能ですが、休暇取得日もあるので、前もって、必ず、アポをとること。以下の、石堂のメールに送信してください。会える日時をメール返信で打ち合わせます。 ishidoh@koriyama-kgc.ac.jp		
自学自習	課題を出してレポートを提出させることが2～3回あるが、そうした場合は、しっかり授業の復習をして、関係資料に当たり、インターネットで専門用語の再確認をし、認識を深めること。結果はレポートに表れる。毎回、各学生が、1回目から15回目までいくうちに素晴らしい進歩を遂げているので、自学自習はおのずとなされている。		

回	項目	授業内容
----------	-----------	-------------

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	導入	<p>本授業の構成・計画について理解する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本授業の目標と、15回分の授業内容構成について、配布資料と説明によって理解する ・次回までの提出物として、レポート「思い出に残る先生」をまとめ提出する。 「思い出に残る先生」のうち、「自分の悩みを真剣に聞いてくれた先生」といった事例をレポート発表から抽出し、の生徒指導の職務やあり方についての意識を覚醒していく。
2	生徒指導の意味と位置づけ	<p>前回出したレポートについて4名に発表してもらい、「良い先生とは」の意味を皆で考え、意見交換する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1、部活での指導をよくして下さった先生、2、進路や悩みで個人的に親身に相談に乗って下さった先生、 3、授業のうまい先生、4、学級を甦らせた先生、 <p>といったタイプが抽出される。</p> <p>教師のこれらの指導力を、生徒指導の仕事と関連づけてみる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「教員の主な仕事」（学習指導・特別活動・生徒指導・学校運営と担当校務分掌・研究と研修）を内容を含めて理解したうえで、 ・生徒指導の意味と定義を『生徒指導提要』（文科省）の説明から理解する。また、『学習指導要領』の記載内容からも生徒指導の仕事の意義を理解する。
3	生徒指導の意味の歴史の変遷（1）	<p>生徒指導の意味と用語は、日本独自である。その歴史の変遷と意味の変遷を理解する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 第1期 初等教育に始まる訓育としての生徒指導 「小学校生徒心得」（明治11年）、「小学校教員心得」（明治14年） 修身の授業が主要科目でもあり、命令と服従の関係で成り立った訓育 2 第2期 中等教育における職業指導としての生徒指導 大正時代から昭和初期 「児童生徒ノ個性尊重及職業指導ニ関スル件」（昭和2年） 但し、訓育の生徒指導は続行：「児童生徒ニ対スル校外生徒指導ニ関スル件」（昭和7年） 3 戦後の占領下で、生徒指導が「ガイダンス」として普及したときの理念を学ぶ。 ・終戦直後の第一次少年非行の波の到来、第二次、第三次、そして第四次といわれる今日まで、少年の検挙数は減少しているが、問題行動の凶悪化がみられるようになった過程を捉える。 ・生徒指導に関わりある教育領域として道徳教育の時間や総合的な学習の時間等との関係を理解する。
4	生徒指導の意味の歴史の変遷（2）	<ol style="list-style-type: none"> 3 第3期:戦後の生徒指導 ガイダンス、カウンセリングの導入 アメリカ型生徒指導の普及。『児童の理解と指導』『中学校・高等学校の生徒指導（昭和24年）』等で「生活指導」の用語登場 他に、『山びこ学校』発刊で集団指導、集団づくりの教育実践が起こる。 4 第4期:凶悪化した問題行動・非行対策としての生徒指導 文部省『生徒指導の手引』（昭和40年） 5 第5期 いじめ、暴力、不登校の常態化における生徒指導期 地域ぐるみの問題解決体制のしくみと生徒指導の刷新 文部科学省『生徒指導提要』（平成22年）発刊の背景について
5	生活綴り方運動からみた生活指導（生徒指導）	<ul style="list-style-type: none"> ・貧困の中にある山村の生活を直視させる指導から起こった生活指導 ・児童生徒の自主的な生き方を開発した作文指導 ・社会の矛盾への目を開かせた教育実践運動 <p>時事問題 今日の社会における「子どもの貧困」問題 生徒指導の観点を加えて考察しよう。</p>
6	生徒指導の歴史の変遷の総括	<p>生徒指導の意味と構造の確認</p> <p>①訓育的心構え→②進路指導（中等教育）→③生活綴り方運動という生徒指導→④ガイダンス→⑤教育相談→⑥キャリア教育→⑦規範教育</p> <p>すなわち、1980年代以降の社会変化と児童生徒の問題行動・非行への対策と健全育成へ（予防・事件解決・事後指導）</p>
7	子どもたちの問題行動と背景にある社会の変化	<ul style="list-style-type: none"> ・学級崩壊から、いじめ、暴力、殺人、万引き、麻薬使用、不登校、引きこもり、長期欠席等の実態を、統計その他の資料を使って客観的に分析する。 ・社会の変化を考察する。 特に2000年以降、激化してきた変化は何かを調べる。 ①情報化や消費文化中心の生活、科学技術の高度発展とそれに反比例しての「こころの荒れ」 生産・労働から遠ざかりがちなニート、フリーター型の生き方にみられる先進国共通の社会的変化と子ども・青年への影響 ②少子化、母親の就業の一般化、祖父母との別居の一般化、近隣の大人たちの子どもたちへの子育てに無関心、虐待をする親、逆にモンスターペアレンツといわれる理不尽な親たちの出現と、親による学校や教師攻撃の増加など、日本の家族形態の変化と子どもへの影響
8	逸脱行動について先行学説から学ぶ	<ul style="list-style-type: none"> ・フランスの社会学者デュルケムは、19世紀末に「犯罪」を研究し、「犯罪は時々の社会にとって不可欠の機能を果たしている」と主張することで、犯罪というレッテルを張られる行為は必ずしも悪とはいえず、逸脱行為というもの、その社会の規範、考え方、慣習から外れただけの行為である場合があるために、犯罪には正常性も含まれるという考え方を提起し、科学的な社会病理学の先鞭をつけたこと。 ・1938年に、アメリカの社会学者ロバート・キング・マートンが、それまでのアメリカ社会病理学に対して、逸脱行動（deviant behavior）という用語を定着させた論文「社会構造とアノミー（異常行動）」を発表し、その後のシカゴ学派などによる逸脱行動研究の流れを用意したこと。
9	『生徒指導提要』（文科省）を読み解き、活用する。	<ul style="list-style-type: none"> ・文科省が平成22年に刊行した『生徒指導提要』の発刊の意図を認識し、本書を手掛かりにして今日の児童生徒の問題行動の実態、それへの対応（予防、即時解決、事後指導、そして健全育成）へのあり方を体系的に学ぶ。 ・児童生徒の問題行動を統計値から認識する ・個別指導と集団指導の手法を学ぶ ・進路指導、教育相談、家庭・学校・地域・関係機関との連携協力の在り方を学ぶ <p>他に、国立教育政策研究所生徒指導センターの『生徒指導資料』全4冊や、月刊誌『生徒指導』『教職課程』（生徒指導の特集号）を活用して校内整備や多機関連携についての知識を深める。</p>

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
10	子どもの規範意識とその芽生え	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒指導とは、非行を予防し、発生したら対処するというだけでなく、子どもたちに規範意識を育むことを前提としている。 ・公共性や奉仕の精神は、どのような学習や活動から生まれ育つのであろうか。 ・「子どもは本来純粋で、善である」とは、フランスの18世紀の思想家、ルソーの見方でもあるが、社会がそうした環境を作り上げていないような場合にはそうした性向の自発的発生は期待できにくい点 学校のカリキュラム編成や諸領域を活用して、規範意識をめばえさせる日常的な教師の指導体制について考えてみる。
11	学校の「抱え込み」から開かれた「連携」へ	近年の問題行動の背後には子供の意識と行動の質的変化が加わっており、子どもの心理面に関する専門的な判断の必要性が求められる。さらに、内容・程度が一定の限度を超える問題行動の発生など、学校だけでは対応できない新たな問題が増えてきている。 したがって、学校には、学校内ですべての問題を解決しようとする「抱え込み」意識を捨て、周囲の人々や関係機関と協同して事態に当たる姿勢に転換することが文科省からも強く勧告されている。 関係機関とは、教育委員会であったり、警察であったり、児童相談所であったり、市役所であったりする。学校が抱え込みをやめるといふ勧告は、平成10年から出され、問題行動への新たな対応となった。 連携に関する関係資料をひも解きながら、この施策の先行例を学ぶ
12	学校・家庭・地域の連携協力の推進	児童生徒を非行・犯罪から守り、人として・社会人としての規範意識を身につけさせるためには、学校内だけの努力では十分ではなく、学校と関係機関との連携ということが重要である。学校は、子どもの問題を抱え込んで処理しようとして苦しんだり、事態を大きくさせてしまったりしないように、他の関係機関と連携し力を借りることが、事態の早期解決や再犯防止につながる。これについて、関係通達、教育支援活動促進事業等を確認し、さらに、「学びを通じた被災地の地域コミュニティ再生支援事業」の具体的取り組みを調べる。 最後に、文部科学省の提唱する「地域の核としての学校」という新たな未来の学校像から、生徒指導の総合的意義を再確認する
13	連携がかたちだけのものに終わらないために：事例研究	<ol style="list-style-type: none"> 1 大津市の中2いじめ自殺事件が教えること <ul style="list-style-type: none"> ・子どもたちを見つめる目、教育委員会の指導姿勢 ・連携のシステムの形骸化を回避する ・学校と警察との連携協力システムから大津市の「あすなろ」の組織化と落とし穴 ・教育委員会の機動性を見直す：教育委員会はどのように学校と密接な関係をとるか。横浜市の教育委員会の対応システムの事例に学ぶ。 2 担任とくに生徒指導主事の人間力と有り方、校長の生徒指導に対する姿勢 <ul style="list-style-type: none"> いじめを児童生徒から撤退させた教師の成功例に学ぶ。 ・担任の教育愛と人間性が教室でのいじめを一掃させた事例 ・暴力で荒れ果てていた中学校を一新させた新任校長の実践事例に学ぶ
14	子どもの「サインを見逃すな」	問題行動に至らせない指導体制 問題はなぜ発生するのか→問題はどのように現れるか→ →児童生徒は何に悩んでいるのか→問題行動に潜む心理 <ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒のストレスを知る ・ストレス反応にはどのようなものがあるか ・児童生徒のストレスに対応できる教員の指導にはどのようなものがあるか ・立ち直った生徒の事例：そこから何がみえてきたか
15	総括に代えて地域社会、関係諸機関との連携	最近の児童生徒の問題行動の背景と対応の事例研究 変化した家庭・親の増加と実態のなかで教師、学校の在り方を考える。 <ul style="list-style-type: none"> ・学校内対応・学校内生徒指導の仕組みの研究：「生徒指導基本方針」の作成と共通理解 ・学校と地域社会との連携：地域の人的資源を生かす ・学校と関係機関（教育委員会・警察・児童相談所等）との連携 その仕組みをどう定着させるか 地域を挙げての問題行動防止の体制<事例研究>

平成29年度

科目名	進路指導論		対象 単位数 必選	短期大学部 家政科福祉情報専攻 1年 1単位 選択/短期大学部 生活芸術科 1年 1単位 選択/短期大学部 音楽科 1年 1単位 選択
担当教員	佐久間 邦友			
開講期	II			
授業概要	本授業では、キャリア教育・進路指導の基礎的な事項について中央教育審議会答申などを通して学んでいく。また義務教育段階、中等教育段階における実際の進路指導・キャリア教育について都道府県教育委員会の資料を基に学ぶものである。そのほかに、自分自身のキャリアプランについて考え、人間関係を円滑に進めるためのコミュニケーション能力および基礎的なマナーを培う。			
達成目標	①キャリア教育・進路指導の基礎的な事項について理解できたか。 ②進路指導の歴史について理解し、中央教育審議会が示したキャリア教育の新たな方向性を把握することができたか。 ④各教育段階におけるキャリア教育推進のポイントとその実例を挙げることができたか。			
受講資格	教職等に就くことを希望する者	成績評価 方法	試験（70%）、レポート（20%）、授業参画度（10%）	
教科書	黒川雅子・山田知代編『生徒指導・進路指導』学事出版 2014年			
参考書	中学校キャリア教育の手引き（文部科学省）、高等学校キャリア教育の手引き（文部科学省）、このほか授業中に適宜紹介する。			
学生への要望	常に受け身の姿勢ではなく、主体的、積極的な姿勢で授業に望んでほしい。			
オフィスタイム	月曜Ⅲ限（12:50～14:20） 木曜Ⅱ限（10:30～12:00） 場所：教職課程推進室 そのほかの時間帯の希望を含め、事前にkunitomo@koryama-kgc.ac.jpにご連絡ください。			
自学自習	事前学習：当日の内容をテキストで確認しておくこと（1時間） 事後学習：授業を踏まえて、レジュメを使ったノートまとめ（1時間）			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	オリエンテーション	1. 授業に関するガイダンス 2. 自身が受けてきたキャリア教育（進路指導）を振り返る
2	キャリア教育の変遷（1）	1. キャリア教育が求められる背景 2. キャリア教育推進の経緯とキャリア教育の定義 3. 教育法規からみるキャリア教育の位置付け 4. キャリア教育の実践をめぐる課題
3	キャリア教育の変遷（2）	1. 中央教育審議会答申「今後の学校におけるキャリア教育・職業教育の在り方について」
4	進学指導（1）	1. 進路開拓に必要な力—キャリア教育を通じて育成すべき力 2. 進路指導とキャリア教育 3. 進学指導の指導計画と課題
5	進路指導（2）	1. 志望校の決定プロセス 2. 学習塾や予備校との付き合い方
6	就職指導	1. 就職指導に関係する法律等 2. 就職指導の年間日程 3. 外部組織との連携
7	授業の確認テストと解説	1. 確認テスト 2. テストの解説
8	若者の雇用をめぐる問題	1. ニート・フリーター 2. 非正規雇用 3. ブラックバイト 4. 格差社会

科目名	教育相談論		対象 単位数 必選	短期大学部 家政科福祉情報専攻 1年 1単位 選択/短期大学部 音楽科 1年 1 単位 選択/短期大学部 生活芸術科 1年 1単位 選択
担当教員	堀 琴美			
開講期	II			
授業概要	<p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>①悩みを抱える児童・生徒に寄り添いながら問題解決をする「カウンセリングマインド」の基本理念を理解する。 ②子どもの成長や発達を支えるスタンスを学び、教師が行う教育相談とは何かを学修する。 ③子どもを取り巻く社会の諸問題（時事問題）について事例やトピックを取り上げ、支援のあり方を考える。</p>			
達成目標	<p>[授業修了時の達成課題（到達目標）]</p> <p>教員として、カウンセリング・マインドを基礎とした教育・支援の理念を持ち、また児童生徒との信頼関係を築けるような関わり方がイメージできるようになること。</p> <p>[履修カルテの評価観点]</p> <p>①教育相談と生徒指導の違い、教師が行なう教育相談と専門機関との違い、保護者や子どもへのかかわり方などについて、どの程度理解できたか。 ②教育相談における行動変容のプロセスと、カウンセリング・マインドについてどの程度理解できたか。 ③子どもを理解するためのキーワード（発達課題、いじめ、虐待、発達障害等）について、どの程度理解できたか。</p>			
受講資格	「教職課程」受講者	成績評価 方法	期末試験または期末レポート（75%） 授業態度・発言や発表の内容（25%）	
教科書	「教師のための教育相談の基礎」久芳美恵子著 三省堂 2010年発行 1980円			
参考書	授業の中でテーマ別に提示します。			
学生への要望	教師をめざす学生、とは言え、どちらかというと児童・生徒の気持ちのほうがよくわかる…そんな今だからこそ、（子どもとして自分が求めている）支援者としての教師像を追求してもらいたいと思います。			
オフィスタイム	水曜日Ⅳ限、木曜日Ⅰ限、臨床心理学研究室			
自学自習	事前学習：テキストを読んで、わからない用語は調べておくこと。グループで調査をする際には、テーマについてなるべく深く掘り下げ、テーマをよく絞り込んでいくこと。 事後学習：授業で出てきた重要キーワードは必ず覚え、参考文献を読んで補足をノートにまとめる。			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	オリエンテーション	授業計画と目標、評価ポイント、授業ポリシーについてのガイダンス。「心に残るあの先生」を振り返るワーク
2	教師が行う学校教育相談	子どもを取り巻く諸問題を俯瞰し、生徒指導と教育相談の関係と違いや、援助機能としての教育相談を学びます。
3	相談のプロセスと行動変容	人は理解してもらおうことで行動が変わる。相談の中で何が起るかを学び、相手の言葉にじっくり耳を傾ける体験的訓練を行います。
4	カウンセリング・マインドと共感的理解	ロジャーズの人間性カウンセリング理論を中心に、気持ちを受け止めること、相手の立場に立って考えること体験的に学びます。
5	子ども理解の基礎知識	発達理論（エリクソン、ピアジェ、ハヴィガースト）、欲求階層説、発達のつまづきと支援のあり方などを取り上げます。
6	子ども理解の基礎知識 (2) 問題行動のとらえ方	問題行動とは何か、人の行動や感情には理由があること、理解と指導（寄り添うことと行動を認めることは別である）のテーマについて、考えます。
7	子どもを取り巻く諸問題	不登校、いじめ、虐待など、子どもを取り巻く諸問題について、グループで課題を決めて研究し、発表します。
8	まとめ	子どもを理解し、子どもの伸びる力を引き出し、保護者のところに響くようなアプローチをしていくための教師のスタンスや、関わり方について考え、授業のまとめをします。

平成29年度

科目名	教育実習Ⅰ		対象 単位数 必修	短期大学部 家政科福祉情報専攻 2年 1単位 選択/短期大学部 生活芸術科 2年 1単位 選択/短期大学部 音楽科 2年 1単位 選択
担当教員	佐久間 邦友			
開講期	Ⅲ			
授業概要	教育実習の意義、内容、方法、手続き、実習中の態度や配慮事項について学び、実習にスムーズに入れるようにするとともに、学生の身分のままで生徒に対しては指導者となることの立場や責任の重さを理解する。 教育実習終了後は、実習体験のまとめを発表し、同時に他の実習生の発表を聞くことで、問題点の整理と解決を図りながら、教師としての望ましい姿を追求していく下地を涵養する。			
達成目標	①実習生としての責任の重さを自覚できたか。 ②実習前の事前準備をすることができたか。 ③実際の指導場面を想定した学習指導案が作成できたか。 ④実習体験をふり返り、他者に伝えることができたか。 ⑤自己と他者の反省から、目指すべき教師像が描けたか。			
受講資格	今年度「教育実習Ⅱ」への参加を認められた者	成績評価 方法	①事前指導で義務付けた提出物の内容 (30点) ②事後指導時に提出させるリフレクションシート (20点) ③実習反省の発表 (30点) ④最終レポート「教育実習を終えて - 私の課題 -」 (1200字) (20点)	
教科書	「教育実習マニュアルと記録ー」(本学様式)をもとにすすめ、必要に応じて参考資料を配布する。			
参考書	早稲田大学「教育実習マニュアル」第5版(東信堂)			
学生への要望	1. 学生個人では責任の負担能力に限界があることを強く意識し、「報告」「連絡」「相談」を徹底する。 2. 積極的・主体的に学ぶ姿勢と謙虚に指導を受容する姿勢との両立を図る心構えを形成して欲しい。 3. 教育実習の受入校(生徒と教師)に対して感謝し、その気持ちの表現についても真剣に考えて欲しい。			
オフィスタイム	月曜Ⅲ限(12:50~14:20) 木曜Ⅱ限(10:30~12:00) 場所:教職課程推進室 そのほかの時間帯の希望を含め、事前にkunitomo@koriyama-kgc.ac.jpにご連絡ください。			
自学自習	事前学修:当日の内容をテキストで確認しておくこと。教育問題の動向を知るために、新聞等をよく読んでおくこと。(30分) 事後学修:授業を踏まえて、課題に取り組むこと。(30分)			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	オリエンテーション、事前指導1(大学・短大合同)	・教育実習をするための必要手続き ・「教育実習Ⅰ」の授業計画、評価方法、各自の実習予定と指導時間の調整 ・教育実習の目的、準備、心構え、教員服務基準の遵守 ・実習に臨むにあたっての不安と期待(小レポート)
2	事前指導2(大学・短大合同)	・教育実習日誌の書き方 ・評価と指導の一体化について ・実習に臨むにあたっての不安と期待(小レポート)を読んで
3	事前指導3(大学・短大合同)	・教育実習の不安克服に向けての具体的な事前準備その① ・礼儀作法、スピーチの練習 ・学級活動の指導(ホームルーム) ・特別活動の指導(各種学校行事)
4	事前指導4(大学・短大合同)	・教育実習の不安克服に向けての具体的な事前準備その② ・教科の指導(板書、教具の活用など) ・御礼状の書き方
5	事前指導5	・模擬授業(大学・短大合同) ・教科指導案(細案)の個別指導 ・道徳指導案の個別指導(短大)
6	事前指導6	・模擬授業(大学・短大合同) ・教科指導案(細案)の個別指導 ・道徳指導案の個別指導(短大)
7	事前指導7	・模擬授業(大学・短大合同) ・教科指導案(細案)の個別指導 ・道徳指導案の個別指導(短大)
8	事前指導8	・模擬授業(大学・短大合同) ・教科指導案(細案)の個別指導 ・道徳指導案の個別指導(短大)
9	事前指導9	・模擬授業(大学・短大合同) ・教科指導案(細案)の個別指導 ・道徳指導案の個別指導(短大)
10	事前指導10	・模擬授業(大学・短大合同) ・教科指導案(細案)の個別指導 ・道徳指導案の個別指導(短大)
11	事前指導11	・模擬授業(大学・短大合同) ・指導案(細案)の個別指導 ・道徳指導案の個別指導(短大)
12	事前指導12	・模擬授業(大学・短大合同) ・指導案(細案)の個別指導 ・道徳指導案の個別指導(短大)

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
13	事後指導 1	<ul style="list-style-type: none"> ・教育実習体験の発表 ・他者評価と自己反省 ・リフレクションシートの提出
14	事後指導 2	<ul style="list-style-type: none"> ・教育実習体験の発表 ・他者評価と自己反省 ・リフレクションシートの提出
15	事後指導 3	<ul style="list-style-type: none"> ・教育実習体験の発表 ・他者評価と自己反省 ・まとめ

平成29年度

科目名	教育実習Ⅱ		対象 単位数 必選	短期大学部 家政科福祉情報専攻 2年 4単位 選択/短期大学部 生活芸術科 2年 4単位 選択/短期大学部 音楽科 2年 4単位 選択
担当教員	佐久間 邦友			
開講期	通年			
授業概要	教育実習の目的である以下の4点を踏まえ、日頃の学びの成果および教育実習事前指導で得たことを基に、「教師としての資質」を高めるために現場実習を行うことを目指す。 1. 大学で学んだことを、教える立場に立って実践的に検証すること。 2. 教師のあり方や職務・使命などを、体験的に理解すること。 3. 学校の実情や生徒の実態を把握し、それらへの具体的対応や心構えを知ること。 4. 自己の教職適性や教職志望を確認すること。			
達成目標	①教材研究を入念に行い、計画した指導案を実践できたか。 ②実習生としての身分をわきまえながら体験することで、教員としての服務基準の遵守を理解できたか。 ③教育実習日誌への簡潔で的確な記述ができたか。 ④学校の実情や生徒の実態、課題を把握することができ、その対処について指導教諭から具体的な対応策を学ぶことができたか。 ⑤実習校の先生方や生徒とのふれあいをとおして教職への志望が一層高まったか。			
受講資格	今年度「教育実習Ⅱ」への参加を認められた者	成績評価 方法	実習校からの評価と実習記録および実習への取り組みの総合点(100点)とする。	
教科書	教育実習 マニュアルと記録			
参考書	事前指導の際に連絡する。			
学生への要望	教育実習生としての心構えを理解し、実践できるように事前準備をしっかりと行うこと。 受け身の姿勢ではなく、主体的、積極的な姿勢で臨んで欲しい。			
オフィスタイム	月曜日限(12:50~14:20) 木曜日限(10:30~12:00) 場所:教職課程推進室 そのほかの時間帯の希望を含め、事前にkunitomo@koriyama-kgc.ac.jpにご連絡ください。			
自学自習	事前学修:当日の実習内容をよく確認しておくこと。(60分) 事後学修:その日の実習を踏まえて、授業準備や課題に取り組むこと。(60分)			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	オリエンテーション	1. 教育実習の目的 2. 教育実習の心構え 3. 教育実習のための準備
2	オリエンテーション	1. 実習日誌の書き方 2. 法令上の注意 3. 実習前打ち合わせ記録
3	現場実習	実習校での現場実習
4	現場実習	実習校での現場実習
5	現場実習	実習校での現場実習
6	現場実習	実習校での現場実習
7	現場実習	実習校での現場実習
8	現場実習	実習校での現場実習
9	現場実習	実習校での現場実習
10	現場実習	実習校での現場実習
11	現場実習	実習校での現場実習
12	現場実習	実習校での現場実習
13	現場実習	実習校での現場実習
14	現場実習	実習校での現場実習
15	教育実習成果報告会	1. 教育実習での成果 2. 教育実習で発見した課題と解決

科目名	教職実践演習		対象 単位数 必選	短期大学部 家政科福祉情報専攻 2年 2単位 選択/短期大学部 生活芸術科 2年 2単位 選択/短期大学部 音楽科 2年 2単位 選択
担当教員	佐久間 邦友			
開講期	IV			
授業概要	授業の概要 本演習では、以下の4事項を踏まえて授業を行う。教員として必要な資質や知識および技能の再確認を行うとともに、自己分析を通して不足している部分の補完を目指し、教員として備えるべき資質のさらなる向上を目指す。			
達成目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 使命感や責任感、教育的愛情等に関する事項 <ol style="list-style-type: none"> ①教育現場の現状を再確認し、教師の使命と役割を理解できたか。 ②社会性や対人関係能力に関する事項 2. 生徒および教職員との人間関係を円滑に進めるためのコミュニケーション能力を培うことができたか。 3. 児童生徒理解や学級経営等に関する事項 <ol style="list-style-type: none"> ③現在の学校における生徒指導上の課題を理解し、「生徒1人ひとりへ個別に対応できる能力」と「学級集団を育成する能力」を培う。とともに「特別支援教育の現状」や「発達障害児」への指導・援助について理解できたか。 4. 教科の指導力に関する事項 <ol style="list-style-type: none"> ④中学校の音楽、美術、家庭科、高等学校の家庭科の教科指導を十分に遂行できる知識と技術を再確認するとともに、各自が幅広い視野で学びを深め、専門性を高めることができたか。 			
受講資格	教育実習Ⅰ・Ⅱを履修していること	成績評価 方法	外部講師の講演を受けてのレポート（担当 佐久間）：10点 ×2回＝20点 「教科の指導力」（担当 難波・磯部・黒沼）：30点 「特別支援教育」（担当 佐久間）：10点 「附属高校の訪問報告書」（担当 佐久間）：10点 「コミュニケーション」（担当 折笠）：20点 「まとめ」の領域における評価（担当 佐久間）：10点	
教科書	授業の際に、配布する「教職実践演習ノート」			
参考書	授業の際に、各担当教員より配布される。			
学生への要望	受け身の姿勢ではなく、主体的、積極的な姿勢で授業に臨んで欲しい。			
オフィスタイム	月曜Ⅲ限（12:50～14:20） 木曜Ⅱ限（10:30～12:00） 場所：教職課程推進室 そのほかの時間帯の希望を含め、事前にkunitomo@koryama-kgc.ac.jpにご連絡ください。			
自学自習	事前学習：当日の内容をテキストで確認しておくこと。教育問題の動向を知るために、新聞等をよく読んでおくこと。（60分） 事後学習：授業を踏まえて、課題に取り組むこと。（60分）			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	オリエンテーション	①履修カルテの整理をすすめながら、これまでの教職課程における学びを振り返る。 ②本科目の目的、授業計画、評価方法について説明して、授業に対する心構えを作る。 ③模擬授業の実施方法の説明 担当：佐久間邦友 菊池節子 磯部哲夫 黒沼令
2	気になる子の理解と対応について	ゲストスピーカーによる講演 担当：ゲストスピーカー（佐久間邦友）
3	福島県における教育の現状・課題としての教師の役割	福島県教育庁関係者による講演 担当：福島県教育庁関係者（佐久間邦友）
4	「特別支援教育」の現状と課題	福島県内特別支援学校教員による講演 担当：ゲストスピーカー2名（佐久間邦友）
5	附属高校訪問と講話	附属高等学校を訪問し、講話をいただく。 担当：ゲストスピーカー2名（佐久間邦友）
6	児童・生徒・保護者との円滑なコミュニケーションの方法について	円滑なコミュニケーションの方法について学修する。 担当：折笠国康
7	児童・生徒・保護者との円滑なコミュニケーションの方法について	円滑なコミュニケーションの方法について学修する。 担当：折笠国康
8	（音楽科・美術科・家庭科・栄養教諭合同）研究授業指導案の改善と発表①～家庭科～	家庭科の授業について、4教科合同で学びを深める。 担当：菊池節子 佐久間邦友
9	（音楽科・美術科・家庭科・栄養教諭合同）研究授業指導案の改善と発表②～家庭科～	家庭科の授業について、4教科合同で学びを深める。 担当：菊池節子 佐久間邦友
10	（音楽科・美術科・家庭科・栄養教諭合同）模擬授業の発表と改善のための話し合い①～栄養教諭～	栄養教諭の授業について、4教科合同で学びを深める。 担当：菊池節子 佐久間邦友
11	（音楽科・美術科・家庭科・栄養教諭合同）模擬授業の発表と改善のための話し合い②～栄養教諭～	栄養教諭の授業について、4教科合同で学びを深める。 担当：菊池節子 佐久間邦友

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
12	(音楽科・美術科・家庭科・栄養教諭合同) 模擬授業の発表と改善のための話し合い③ ~栄養教諭~	栄養教諭の授業について、4教科合同で学びを深める。 担当：菊池節子 佐久間邦友
13	(音楽科・美術科・家庭科・栄養教諭合同) 教科の専門技能の発表と改善のための話し合い① ~美術~	美術の授業について、4教科合同で学びを深める。 担当：黒沼令 佐久間邦友
14	(音楽科・美術科・家庭科・栄養教諭合同) 教科の専門技能の発表と改善のための話し合い① ~音楽~	音楽の授業について、4教科合同で学びを深める。 担当：磯部哲夫 佐久間邦友
15	まとめ	授業の総括を行う。 当初の目標と現在の課題を確認し、自己評価と反省を行い、レポートを提出し履修カルテを完成させる。 担当：菊池節子 佐久間邦友

平成29年度

科目名	教職キャリアデザインⅠ		対象 単位数 必選	短期大学部 家政科福祉情報専攻 1年 2単位 選択/短期大学部 音楽科 1年 2 単位 選択/短期大学部 生活芸術科 1年 2単位 選択
担当教員	佐久間 邦友			
開講期	Ⅱ			
授業概要	教職キャリアデザインⅠは、建学の精神に則り、教員としてのキャリア形成を目指す学生を対象にした科目である。本科目は、教職に就くために何をどう努力したらよいか、その具体的な方法を得ることを目標としている。講義の内容は、教職教養関連の科目、専門科目、小論文、集団討論等から成る。また、12月に模擬試験（教職教養）の受験体験を組み入れ、教員としてのキャリア形成の一助となるようにはかっている。本科目の受講を手がかりにして教職へのキャリアを築くことができるよう、積極的に勉学に励むことを期待する。			
達成目標	①教員としてのキャリア形成を構築することができたか。 ②教員採用選考に向けて自己の実力を認識することができたか。			
受講資格	原則として、本学教職課程履修者の内、大学3年生、短大1年生、卒業生を対象とする。	成績評価 方法	平常点による「認」評価	
教科書	特に指定はない。毎回、各担当教員が資料等を配布する。			
参考書	『教育小六法』（最新版） 志望校種の『学習指導要領』			
学生への要望	採用試験は、各都道府県によってさまざまであるため、各自の自主的な勉学が必要である。本科目の受講が勉学の指針となるように、授業への積極的な参加を望む。 常に受け身の姿勢ではなく、主体的、積極的な姿勢で授業に望んでほしい。			
オフィスタイム	月曜Ⅲ限（12:50～14:20） 木曜Ⅱ限（10:30～12:00） 場所：教職課程推進室 そのほかの時間帯の希望を含め、事前にkunitomo@koryama-kgc.ac.jpにご連絡ください。			
自学自習	事前学習：当日の内容をテキストで確認しておくこと（1時間） 事後学習：授業を踏まえて、レジュメを使ったノートまとめ（1時間）			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	オリエンテーション	授業内容、自学の仕方、教員採用試験に関する説明を聞く。志望都道府県調査表を記入する。 担当：佐久間
2	教育原理	過去問を解くことを通して、出題傾向を知る。 担当：佐久間
3	教育法規	過去問を解くことを通して、出題の傾向を知る。 担当：佐久間
4	教科別指導①	過去問を解くことを通して、出題傾向を知る。 担当：（家庭）難波、（栄養）菊池、（音楽）磯部、（美術）黒沼
5	教科別指導②	各専門教科について、基礎的な知識を身につける。 担当：（家庭）難波、（栄養）菊池、（音楽）磯部、（美術）黒沼
6	教科別指導③	各専門教科について、基礎的な知識の理解を深める。 担当：（家庭）難波、（栄養）菊池、（音楽）磯部、（美術）黒沼
7	特別支援教育	過去問を解くことを通して、出題傾向を知る。 担当：小林
8	教育心理	過去問を解くことを通して、出題傾向を知る。 担当：折笠
9	教育時事	過去問を解くことを通して、出題傾向を知る。 担当：佐久間
10	模擬試験	模擬試験の受験体験をする。 担当：佐久間
11	模試フォローアップ	模擬試験を振り返るとともに、克服すべき点を確認する。 担当：佐久間
12	小論文	論理的に文章をまとめ上げる基本を知り、添削を受ける。 担当：小阪
13	個人面接	教職をなぜ目指すのか。面談の体験を通して教職への意識を高める。 担当：小林、折笠、亀田、富士盛
14	集団討論	グループで結論を導き出す体験を通して、討議とは何かを知る。 担当：小林、折笠、亀田、富士盛
15	採用試験の申込について	採用試験の手続き、提出書類について知る。 担当：佐久間

平成29年度

科目名	教職キャリアデザインⅡ		対象 単位数 必修	短期大学部 家政科福祉情報専攻 2年 2単位 選択/短期大学部 音楽科 2年 2 単位 選択/短期大学部 生活芸術科 2年 2単位 選択
担当教員	佐久間 邦友			
開講期	Ⅲ			
授業概要	教職キャリアデザインⅡは、建学の精神に則り、教員としてのキャリア形成を目指す学生を対象にした科目である。本科目は、実践的な力をつけることをねらいとしている。 講義は、教職教養関連の科目、専門科目、小論文、集団討議等から成る。 また、4、5月に行われる模擬試験（教職教養）の受験をとおして、自己の実力を知り、キャリア形成の一助となるようにした。本科目の受講をとおして、これまでの勉学がより一層促進されることを期待する。			
達成目標	①教員としてのキャリア形成を構築することができたか。 ②教員採用選考に向けて自己の実力を認識することができたか。			
受講資格	原則として、本学教職課程履修者の内、大学4年生、短大2年生、卒業生を対象とする。	成績評価 方法	平常点により「認」評価。	
教科書	特に指定はしない。毎回、担当教員が適宜資料を配付する。			
参考書	『教育小六法』（最新版） 志望校種の『学習指導要領』			
学生への要望	本科目の受講をとおして各自の勉学の指針となるよう積極的に受講されることを希む。			
オフィスタイム	月曜Ⅲ限（12:50～14:20） 木曜Ⅱ限（10:30～12:00） 場所：教職課程推進室 そのほかの時間帯の希望を含め、事前にkunitomo@koriyama-kgc.ac.jpにご連絡ください。			
自学自習	事前学習：当日の内容をテキストで確認しておくこと（1時間） 事後学習：授業を踏まえて、レジュメを使ったノートまとめ（1時間）			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	オリエンテーション	授業内容の説明を聴く。教員採用の現状を知り、個別相談を受ける。 担当：佐久間
2	模擬試験	模擬試験を経験することによって、現在の実力を知る。 担当：佐久間
3	模試フォローアップ	模擬試験を振り返ることによって、自身の弱点を知り、更なる勉学の進展を図る。 担当：佐久間
4	小論文	自己の教育に対する考えを、論理的にまとめる練習をする。 担当：小阪
5	特別支援教育	過去問を解くことをとおして、知識の理解を深め、実力の向上を図る。 担当：小林
6	教育原理	過去問を解くことをとおして、知識の理解を深め、実力の向上を図る。主として、教育思想、教育史。 担当：佐久間
7	教育法規	過去問を解くことをとおして、知識の理解を深め、実力の向上を図る。 担当：佐久間
8	教科別指導①	各専門教科において、現在、教育現場でなされている実践やカリキュラム等について幅広い知識を身につける。 担当：（家庭）難波、（栄養）菊池、（音楽）磯部、（美術）黒沼
9	教科別指導②	各専門教科において、現在、教育現場でなされている実践やカリキュラム等について知識を深める。 担当：（家庭）難波、（栄養）菊池、（音楽）磯部、（美術）黒沼
10	教科別指導③	各専門教科において、現在、教育現場でなされている実践やカリキュラム等について、これまで得た知識の理解を深め、実力の向上を図る。 担当：（家庭）難波、（栄養）菊池、（音楽）磯部、（美術）黒沼
11	模擬試験	模擬試験の経験をおとして、現在の実力を知る。 担当：佐久間
12	教育時事	現在、教育現場で話題となっていることを知り、文部科学省の方針の理解を深める。 担当：佐久間
13	模試フォローアップ	模擬試験を振り返ることによって、弱点をチェックする。 担当：佐久間
14	個人面接	自己をPRする力をつけるとともに、教職への意識を高める。グループで結論を導き出す体験をおとして、討議の力を高める。 担当：小林、折笠、亀田、富士盛
15	集団討議	グループで教育に関する課題について、ある結論を導き出す体験をおとして、他者と討議する力を高める。 担当：小林、折笠、亀田、富士盛